2027年度
（令和９年度）

佐　賀　大　学
入学者選抜要項

佐　賀　大　学

目　　次

Ⅰ　2027（令和９）年度佐賀大学入学者選抜方法等の主な変更点 …… 2

Ⅱ　入　試　日　程 …… 3

Ⅲ　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） …… 4

Ⅳ　募　集　人　員 …… 25

Ⅴ　出　願　資　格 …… 26

Ⅵ　選　抜　方　法 …… 27

一般選抜

1　2027年度一般選抜実施教科・科目 …… 30

2　英語外部検定試験の一般選抜での利用について …… 32

3　特色加点制度について …… 34

4　2027年度個別テスト等の出題範囲及び試験方法について …… 34

5　芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について …… 35

6　2027年度大学入学共通テストの科目選択及び得点の取扱い等について …… 35

特別選抜

1　2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法 …… 38

2　2027年度学校推薦型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法 …… 44

3　2027年度佐賀県推薦入学特別選抜出願資格・選抜方法 …… 44

4　2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法 …… 46

5　2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法 …… 50

6　2027年度帰国生徒選抜，社会人選抜出願資格・選抜方法 …… 54

7　2027年度学校推薦型選抜Ⅰ，総合型選抜Ⅰの配点について …… 56

Ⅶ　私費外国人留学生入試 …… 57

Ⅷ　合格者を対象とした入学前教育の実施について …… 59

Ⅸ　障がい等のある志願者との事前相談について …… 59

Ⅹ　インターネット出願について …… 60

経済学部の改組予定について

佐賀大学は令和９年４月に以下のとおり経済学部の改組を予定しております。計画は、文部科学省へ設置報告書を提出し、その届出が受理されて確定するものであり、変更があり得ます。

１．改組計画

経済学部　改組前	
経済学科	100名
経営学科	70名
経済法学科	60名
計	230名

⇒

経済学部　改組後	
経済学科	230名

２．概要

経済学部では、経済・経営・法理論を基礎に社会科学の思考法とデータサイエンス力を習得し、デジタル社会に対応した人材育成を実現するため、これまでの「経済学科」「経営学科」「経済法学科」の３学科を統合し、経済学科１学科とします。

１年次には、経済・経営・法の３分野の基礎、並びに、データサイエンスとコミュニケーションのスキルを必修科目として幅広く学び、社会を多面的に捉える視点とスキルを養います。

２年次以降は、５つの専門ユニット（デジタル、政策、エリア、マーケティング、会計・ファイナンス）を選択し、興味や将来の進路に応じて学びを深化させます。ユニット制を通じ、経済学と経営学と法学を組み合わせるなど、従来の学科の枠組みを超えた専門性の形成が可能となります。

また、行政や企業と連携した「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を重視し、理論と実践を繰り返すことで、社会の課題を「解像度」高く複眼的に捉え、解決へと導く「プロジェクトマネジメント人材（ブリッジ人材）」を育成します。

Ⅰ　2027(令和９)年度佐賀大学入学者選抜方法等の主な変更点

１　教育組織の見直し及びそれに伴う入学定員・募集人員の変更（変更箇所下線）

変更事項	2026年度	2027年度	該当ページ
教育学部（前期日程），農学部（前期日程，後期日程），コスメティックサイエンス学環（後期日程）における数学の出題範囲について	数学Ⅰ，数学Ⅱは全範囲 数学Ａは「図形の性質」「場合の数と確率」 数学Ｂは「数列」 数学Ｃは「ベクトル」	数学Ⅰ，数学Ⅱは全範囲 数学Ａは「図形の性質」「場合の数と確率」及び「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」 数学Ｂは「数列」 数学Ｃは「ベクトル」	P.34
医学部医学科（前期日程，帰国生徒選抜，私費外国人留学生入試），理工学部（前期日程，後期日程）における数学の出題範囲について	数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲは全範囲 数学Ａは「図形の性質」「場合の数と確率」 数学Ｂは「数列」 数学Ｃは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」	数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲは全範囲 数学Ａは「図形の性質」「場合の数と確率」及び「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」 数学Ｂは「数列」 数学Ｃは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」	P.34
教育学部共同教員養成課程小中連携教育コース英語分野（総合型選抜Ⅰ）の英語外部検定試験について	実用英語技能検定（２級以上）（2050～），TEAP（220～），GTEC（４技能）（900～），TOEFL iBT（45～）取得者はリーディングを満点扱いとする。有効となる検定試験は，2024年４月１日以降に受験した検定試験に限る。 ※2026年度のみの取扱いとなります。	実用英語技能検定（２級以上）（2050～），TEAP（220～），GTEC（４技能）（900～），TOEFL iBT（45～）のいずれかの取得を出願要件とする。有効となる検定試験は，2025年４月１日以降に受験した検定試験に限る。	P 46, 47
芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科芸術表現コース（前期日程「３科目型」及び後期日程）実技検査（描写表現）の変更について	１）木炭による石膏デッサン ２）鉛筆による石膏デッサン ３）水彩による静物着彩	１）木炭による素描 ２）鉛筆による素描 ３）水彩による静物着彩	P.35
経済学部の学科変更及び募集人員の変更について	【経済学科】 （入学定員）：100 （募集人員）：前期日程：65　後期日程：15 ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：10 ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：10 【経営学科】 （入学定員）：70 （募集人員）：前期日程：25　後期日程：15 ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：10 ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：20 【経済法学科】 （入学定員）：60 （募集人員）：前期日程：30　後期日程：20 ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：10 ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：０	【経済学科】 （入学定員）：230 （募集人員）：前期日程：110　後期日程：25 ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：35 ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：35 ：総合型選抜Ⅱ：25	P.25, 30, 38, 50
経済学部（前期日程）科目及び配点の変更について	大学入学共通テスト 外国語（200点） 国語（200点） 数学（200点） 地理歴史，公民（100点） 【新規追加】 情報（30点） 計（730点） 個別試験 外国語（100点） 合計（830点）	大学入学共通テスト 外国語（100点） 国語（100点） 数学（100点） 地理歴史，公民（50点） 理科（25点） 情報（25点） 計（400点） 個別試験 外国語（200点） 合計（600点）	P.30
経済学部（総合型選抜Ⅱ）科目及び配点について	新規追加	大学入学共通テスト 外国語（200点） 国語（200点） 数学（200点） 地理歴史，公民，理科，情報から１科目（100点）（高得点採用） 書類審査（30点） 計（730点）	P.50, 51
理工学部理工学科（総合型選抜Ⅱ）の大学入学共通テストにおける理科指定科目の変更について	【化学分野】 「理科」４科目（物理，化学，生物，地学）から２科目選択	【化学分野】 「理科」４科目（物理，化学，生物，地学）から２科目選択（ただし化学は必須）	P.53

Ⅱ　入試日程

選抜種別		学部・学環	募集要項公表時期	インターネット事前登録開始日※1	出願書類提出期間	試験日	合格者発表日	入学手続期間
一般選抜	前期日程	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環	12月上旬	2027年1月18日(月)	2027年1月25日(月) ～ 2027年2月3日(水)	2027年2月25日(木)	2027年 3月6日(土)	2027年3月7日(日) ～ 2027年3月15日(月)
		医学部				2027年2月25日(木) 2027年2月26日(金)		
	後期日程	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 医学部看護学科 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環				2027年3月12日(金)	2027年 3月20日(土)	2027年3月21日(日) ～ 2027年3月27日(土)
特別選抜	学校推薦型選抜Ⅰ	経済学部 理工学部 農学部	9月中旬 ※2	2026年10月25日(日)	2026年11月1日(日) ～ 2026年11月6日(金)	2026年11月27日(金)	2026年 12月7日(月)	2027年1月18日(月) ～ 2027年1月21日(木)
		教育学部 芸術地域デザイン学部 医学部看護学科				2026年11月28日(土)		
	学校推薦型選抜Ⅱ	医学部医学科 (一般枠・佐賀県枠)		2026年10月25日(日)	2026年11月1日(日) ～ 2026年11月6日(金)	2026年11月28日(土)	2027年 2月9日(火)	2027年2月11日(木) ～ 2027年2月17日(水)
	佐賀県推薦入学	医学部医学科 (右記出願期間はあらかじめ行われる佐賀県の選抜を経た上での出願期間です。)		2026年11月4日(水)	2026年11月11日(水) ～ 2026年11月16日(月)			
	総合型選抜Ⅰ	教育学部 芸術地域デザイン学部	8月上旬	2026年9月3日(木)	2026年9月10日(木) ～ 2026年9月17日(木)	2026年10月9日(金) 2026年10月10日(土)	2026年 11月2日(月)	2026年11月13日(金) ～ 2026年11月17日(火)
		理工学部	9月中旬	2026年10月25日(日)	2026年11月1日(日) ～ 2026年11月6日(金)	2026年11月28日(土)	2026年 12月7日(月)	2027年1月18日(月) ～ 2027年1月21日(木)
	総合型選抜Ⅱ	教育学部 経済学部 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環	9月中旬	2027年1月12日(火)	2027年1月18日(月) ～ 2027年1月28日(木)	－	2027年 2月9日(火)	2027年2月11日(木) ～ 2027年2月17日(水)
	帰国生徒	理工学部 農学部	9月中旬	2026年10月25日(日)	2026年11月1日(日) ～ 2026年11月6日(金)	2026年11月27日(金)	2026年 12月7日(月)	2027年1月18日(月) ～ 2027年1月21日(木)
		医学部医学科				2027年2月25日(木) 2027年2月26日(金)	2027年 3月8日(月)	2027年3月10日(水) ～ 2027年3月15日(月)
	社会人	医学部看護学科				2026年11月28日(土)	2026年 12月7日(月)	2027年1月18日(月) ～ 2027年1月21日(木)
私費外国人	留学生入試	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	9月中旬	2026年11月4日(水)	2026年11月11日(水) ～ 2026年11月18日(水)	2027年2月26日(金)	2027年 3月8日(月)	2027年3月10日(水) ～ 2027年3月15日(月)
		医学部医学科				2027年2月25日(木) 2027年2月26日(金)		

※1　出願情報の登録は「インターネット事前登録開始日」からできますが，出願書類提出期間内に出願書類を提出する必要がありますので，それに間に合うように出願登録・検定料の支払いを行ってください。

※2　佐賀県推薦入学特別選抜（佐賀県による第一次選考）の学生募集要項は，佐賀大学及び佐賀県健康福祉部医務課医療人材政策室において配布します。
お問い合せ先　佐賀県健康福祉部医務課医療人材政策室
〒840-8570　佐賀市城内１－１－59　TEL 0952－25－7358　https://www.pref.saga.lg.jp/

Ⅲ　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は，学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として，人格形成，専門知識・技術の修得，そして基礎から実用開発にいたるまで，能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は，高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること，地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること，国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は，チャレンジ精神を持ち，問題を自発的に探求・解明し，社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

教育学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

教育学部は，幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点で見据えながら，広い視野と深い教養及び基礎的・専門的な知識・技術を修得することで，現代社会の変化に伴う様々な教育課題や幅広い地域の教育課題に応えることができる，人間性豊かで高度な実践力をもった教員の養成を目的としています。そのため，以下に示すような人を広く求めます。

⑴現代社会の幅広い分野の諸問題に興味・関心をもつとともに教員を目指す強い意志と情熱をもち，子どもの教育と社会的活動に関わる問題解決に意欲的に取り組む人。

⑵高等学校までの教科等の学習に基づく幅広い基礎的学力や技能を備え，専門職としての教員に必要な知識・技能の修得に積極的に取り組む人。

⑶主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力をもち，多様な人々と協働して学ぼうとする人。

また，本学部のカリキュラムに適応するのに必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然科学と技術の分野，文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	●グローバル人材を育成する教員に必要な英語コミュニケーションに関する科目を学ぶため，英語に関する基本的な能力と学習力が必要です。 ●教育実習のように，実際の教育現場における学習活動を行うため，主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力が必要です。 ●教育学の基礎的な知識・理論，各教科の教育内容やその学習指導方法，障害のある幼児・児童・生徒に対する教育，並びに幼児教育・小学校教育・中学校教育の各教育段階のあいだの円滑な接続や連携に関わる科目を学ぶために，高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。 ●教育のプロフェッショナルとして課題を発見し，それらを解決する能力を身につけるため，高等学校までに修得した知識・技能を活用して問題解決に繋げることができる思考力・判断力・表現力が必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

小中連携教育コース

文系，理系に偏らず，高等学校で履修する全ての教科・科目について，基礎的な知識を幅広く学習し，自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお，技能が重要視される教科については，基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来，小学校や中学校などの教師として活躍するためには，初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち，読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など，教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば，積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

教育支援探究コース

高等学校で履修する全ての教科・科目について，基礎的な知識を幅広く学習し，自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来，教師として活躍するためには，教職についての意欲と関心を培い，幼児教育や初等教育，特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など，将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば，積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

教育学部では，大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として，高等学校までの学習に基づく基礎的な学力や技能に加え，子どもの教育に対する幅広い関心と情熱，論理的思考力，コミュニケーション能力を重視しています。

上記のような学生を選抜するための基本方針として，入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，本学部では，以下の各選抜方法によって，大学入学後の学修に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「総合型選抜」の入試区分により，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■小中連携教育コース

① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と，これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
⑤ 英語，理数，音楽，保健体育，家庭，技術のいずれかの分野に関する高い意欲・関心と，その分野に関する特に優れた知識と技能
⑥ 教師を目指そうとする意思
⑦ 将来，小・中学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
⑧ 将来，佐賀県下の小学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
⑨ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
学力３要素との対応			「知識・技能」		「思考力等」		３要素全て	「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○					
		個別テスト等	○	15	15						
		特色加点									☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○					
		個別テスト等	○	15		15					
		特色加点									☆
	学校推薦型選抜Ⅰ（佐賀県枠）	基礎学力試験	○	40							
		小論文	○			20					
		面接								30	
		推薦書									
		志望理由書								10	
		調査書	◎								
	総合型選抜Ⅰ	適性検査	○				36				
		活動実績報告書									
		小論文	○			18					
		面接					28				
		志願理由書					18				
		調査書	○								
	総合型選抜Ⅱ（小学校教育主免専攻）	共通テスト	91	○	○	○	○				
		志望理由書					（9）	（9）			
		活動実績報告書					（9）				（9）
		調査書	○				○				
	総合型選抜Ⅱ（中学校教育主免専攻）	共通テスト	93	○	○	○	○				
		志望理由書					（7）	（7）			
		活動実績報告書					（7）				（7）
		調査書	○				○				

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよそ各配点のウエイト[%]）
ⅱ．◎は，点数化はしないが，段階評価するもの（合否，ABC など）
ⅲ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅳ，☆は，加点評価

■教育支援探究コース

① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と，これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
⑤ 特別支援教育の分野に関する学習意欲
⑥ 教師を目指そうとする意思
⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○			
		個別テスト等	○	15	15				
		特色加点							☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○			
		個別テスト等	○	15		15			
		特色加点							☆
	学校推薦型選抜Ⅰ	基礎学力試験	○	25					
		小論文	○			25			
		面接					25		
		推薦書					25		
		調査書	◎						

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．◎は，点数化はしないが，段階評価するもの（合否，ABC など）
ⅲ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅳ．☆は，加点評価

芸術地域デザイン学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

芸術地域デザイン学部は，創造性や高い技能をもち，新しい芸術表現を実現できる人材，また，地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し，芸術を社会に紹介したり，芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの教育目的，カリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等，そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み，芸術を自ら創造・表現し，美術・工芸や有田セラミックの専門的知識を修得するとともに，芸術を多面的・総合的に学ぶことで社会の中で自らの活動をマネジメントできる能力を身につけることにより，地域創生に貢献する人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然，文化，社会に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現，地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能，考え方などを授業や演習，フィールドワークを通じて修得するために，高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに，主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお，芸術表現の技能や巧拙は，共通科目を履修する上で前提とはなりませんが，芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。

専門科目	独自の芸術表現とそれを支える技術，芸術の歴史や素材・技法に関する知識，経営的な視点を持ち，芸術を多面的・総合的に捉える能力を修得するために，高等学校で習得すべき基礎的学力とともに芸術についての知識，また，自らの手による描写力，発想力など芸術表現に関わる基本的な技能が不可欠です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の１年間をかけて掘り下げることで，論文あるいは作品として仕上げることを求めるため，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論や活動へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく３つの事を意識してください。１つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ，これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ，同時に活力を生み出す事が出来ます。２つ目は「理知」です。身の回りの現実に起こる出来事に興味を持ち，気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ，理知へと発展します。３つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで，より有意義な大学生活が送れるはずです。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し，地域創生に貢献できる人材，キュレーター(学芸員)やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材，また，まちづくり，地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然，文化，社会に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現，地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能，考え方などを授業や演習，フィールドワークを通じて修得するために，高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに，主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお，芸術表現の技能や巧拙は，共通科目を履修する上で前提とはなりませんが，芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	地域デザインの理論と実践力,芸術の歴史や素材・技法に関する知識,経営的な視点から芸術を多面的・総合的に捉える能力について，授業や演習，フィールドワークを通じて修得するために，高等学校で習得すべき幅広い教科・科目の基礎的学力とともに,地域社会が抱える問題についての基礎的な知識,様々な資料や情報を読み解くための基礎的な読解力，論理的思考力，分析力，考察力に加え，自分の考えを発信する表現力，企画力，発想力等が必要です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の１年間をかけて掘り下げることで，論文あるいは作品として仕上げることを求めるため，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論や活動へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

地域デザインコースで問われるのは，芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける４年間の教育課程を確実に修得するためには，高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に，国語，英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに，自分の考えを分かり易く，文章や絵，図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力，発想力，表現力が必要です。将来，国内・海外の文化芸術振興，あるいはまちづくり，地域創生等に貢献できる人材となるためには，地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに，大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など，地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば，積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「総合型選抜」の入試区分により，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■芸術表現コース

① 高等学校で修得すべき基礎的な教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 芸術に関する知識及び自らの手による描写力，発想力など芸術表現に関わる基本的な技能
③ 芸術表現を学ぶために必要な分析力，考察力，表現力及び企画力を含む発想力
④ 芸術表現に取り組む主体性と行動力
⑤ 芸術表現に関する継続的な学習や自主的な芸術表現活動に向けた意欲や姿勢
⑥ 芸術表現の分野における優れた経験や実績

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	50					
		個別テスト等		50	○		○	
	後期日程	共通テスト	60					
		個別テスト等		40	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ	実技検査		37.5	○			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 調査書 推薦書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ （美術・工芸分野）	適性検査		○	25			
		面接		(37.5)		○	(37.5)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ （有田セラミック分野）	適性検査		○	50			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの

■地域デザインコース

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力，論理的思考力，分析力，考察力
④ 地域社会が抱える問題に関心があり，芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力，発想力，表現力
⑤ 主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力
⑥ 継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲と態度
⑦ 高等学校入学以降あるいは中学校卒業以降の主体的な実績・活動
⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	64							
		個別テスト等		36						
		特色加点								☆
	後期日程	共通テスト	67							
		個別テスト等		11	22					
		特色加点								☆
	総合型選抜Ⅰ	適性検査	○		50					
		小論文	○		30					
		面接					20			
		志願理由書					◎			
		調査書	◎				◎			
		活動実績報告書（加点式）				☆	☆		☆	

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．◎は，点数化はしないが，段階評価するもの（合否，ABC など）
ⅲ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅳ．☆は，加点評価

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

社会課題の解決に向け，データサイエンスを駆使し，戦略・政策を立案・実行できるプロジェクトマネジメントが必要になっています。経済学部では，課題発見・仮説設定・データ分析の枠組の構築ができるプロジェクトマネジメント能力を涵養します。そのために，経済学・経営学・法学の社会科学の理論，知識，教養からなる基礎学力とデータサイエンス基礎力を授け，社会課題に解像度高く複眼的に対応できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成，並びにそのために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然，現代社会と生活だけでなく，社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために，高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに，データサイエンス基礎力に裏打ちされたプロジェクトマネジメント能力によって，社会課題を発見し，入学後に選択する各ユニットに関する必要な専門知識・技能を習得・活用し，各自が設定した社会課題に解像度高く複眼的に対応できる能力を修得するために，高等学校で履修する国語，数学，英語，理科，社会（地理，歴史，公民），情報といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく，資料，情報，データを読み解く力，自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また，専門分野での情報収集・データ分析・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため，英文の資料を理解するための基本的な英語の学習力が必要です。さらに，少人数による演習を１年次から行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取組〉

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。さまざまな知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには，文章の読解力だけでなく，論理的に展開し記述する国語力が求められます。経済学や統計学，会計学を含むデータ分析には，数学的・統計学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって，高等学校の教科書レベルの数学や情報学，理科の知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には，普通科の科目だけでなく，商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。国際性が求められる現代においては，英語を中心とした外国語だけでなく，地理や歴史などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営，法律に関連する社会現象に目を向け，関心のあるテーマについては，図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは，入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下のとおりです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜Ⅰ」「総合型選抜Ⅱ」の入試区分により，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力，論理的思考力，分析力，考察力
④ 経済学部で学ぶために必要な基礎的な学力・学習力
⑤ 社会科学の思考プロセスをもとに，データサイエンスを駆使しながら，入学後に選択する各ユニットに関する専門科目に関心があり，主体的に学び続けようとする意欲と態度
⑥ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動
⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	67						
		個別テスト等	○	33					
		特色加点							☆
	後期日程	共通テスト	88						
		個別テスト等	○		12				
		特色加点							☆
	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○		83				
		面接					◎		
		志望理由書					◎		
		推薦書	○				◎		
		調査書	○						
		基礎学力・学習力テスト				17			
		活動実績報告書（加点式）						☆	
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	96						
		活動実績報告書						4	
		調査書	○						

i　数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ii　◎は，点数化はしないが，段階評価するもの（合否，ABC など）
iii　○は，間接的に評価，又は内容を確認するもの
iv　☆は，加点評価

医学部

求める学生像

医学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

革新の系譜を継ぎ，医学・医療の未来を拓く

佐賀大学医学部医学科は，日本の医療の近代化をリードした佐賀藩，医学教育の刷新の旗手であった佐賀医科大学の革新の精神を継承し，多様化する社会の要請に応える優れた医療人と研究者を育成することによって，医療の質向上と医学の発展を先導することを目指しています。

そのために，以下に示すような資質を持つ学生を求めています。

① 医療や研究を通じて社会に貢献し，医学の発展に寄与する志
② 病む人に寄り添い，傾聴し共感する姿勢
③ 倫理観と責任感を基盤とした論理的な判断力と行動力
④ 専門分野の学修に不可欠な幅広い基礎学力
⑤ 主体的かつ協働的に学びを深める姿勢
⑥ 自らの考えを的確に表現し，助言や批判を柔軟に受け入れる姿勢
⑦ 医療や研究の国際的な動向を踏まえて学びを更新し続ける姿勢

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

医学は生命科学を中心に，自然科学の諸分野と人文・社会科学が密接に関わる学問です。そのため，高等学校では科目を偏ることなく幅広く履修し，基礎学力をしっかり身につけてください。生物・化学・物理・数学の基本事項を十分に理解し，それに基づいて論理的に考える力を養うことが重要です。また，医師の社会的役割を自覚し，病む人の立場に立って考えるためには，国語や社会の力が不可欠です。世界の最新の医療情報を学び，情報を発信するためには，英語の学習は必須です。

本学科は，基礎知識の学習を，事例検討，基礎実験，臨床技能訓練，臨床実習と連動させたアクティブラーニング形式で行っています。このような学習を効果的に行うためには，コミュニケーション能力と協調性が求められます。

また，医療や医学を取り巻く社会に関心を持ち，読書やボランティア活動，医療現場に関わる先輩との交流などを通じて，自らの果たすべき役割を主体的に考える姿勢を持つことが望まれます。加えて，技術の向上や未知の問題解決には継続的な努力が不可欠です。日々の生活はもちろん，部活動や課題研究に積極的に取り組み，試行錯誤を重ねる経験を通じて，自らを見つめ，成長しようとする姿勢を身につけてください。

本学は，このような資質を備えた学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「佐賀県推薦」，「帰国生徒」の入試区分により，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

① 幅広い基礎学力
② 論理的思考力
③ 表現力とコミュニケーション力
④ 主体性と協働性
⑤ 倫理観
⑥ 省察と改善を重ねる姿勢
⑦ 医学・医療への志

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト（68%）	○	○					
		個別テスト（26%）	○	○	○				
		面接（６%）			○	○	○	○	○
		調査書	○			○	○	○	○
	学校推薦型選抜Ⅱ	共通テスト（75%）	○	○					
		小論文（16%）		○	○		○		○
		面接（９%）			○	○	○	○	○
		調査書・推薦書	○			○	○	○	○
		自己推薦書			○	○			○
		志願理由書(佐賀県枠のみ)			○	○			○
	佐賀県推薦	共通テスト（75%）	○	○					
		小論文（16%）		○	○		○		○
		面接（９%）			○	○	○	○	○
		所信書				○			○
		調査書	○			○	○	○	○
	帰国生徒	学力検査（67%）	○	○	○				
		面接（33%）			○	○	○	○	○
		提出書類	○			○	○	○	○

ｉ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）

求める学生像

看護学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ，柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために，以下に示すような学生を求めています。

① 人間に関心を持ち，人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
② 豊かな感性と表現力を身につけている人
③ 相手の立場に立って，柔軟に物事を考えられる人
④ 看護職に夢を持ち，理想とする看護職者を目指そうとする人
⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
⑥ 生涯を通して，看護学や医療について勉学する意欲のある人

看護学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然，文化，社会に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と，関連領域の基礎的理解（看護倫理，栄養学など）や看護の道を進むための基本となる姿勢や学習方法を学ぶ授業科目（キャリアデザイン）で構成されるため，高等学校で履修する数学，理科に関する基礎的理解と応用力に加え，他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し，知識の修得とともに，自己学習の習慣を身につけ，科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに，地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し，看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として，チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として，医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため，学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに，協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度，姿勢および行動力を持っていることが必要です。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

看護学は，健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で，環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には，自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため，看護学の学習のためには，高等学校で履修すべき科目を偏ることなく，幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる，看護の知識と専門的技術の修得には，特に，生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し，論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また，看護は人間関係を通して実施されるため，文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は，看護の生涯学習の基盤となるため，国内外の社会に目を向け，読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて，自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「社会人」の入試区分により，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
③ 資料等の理解力，科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
④ 人間に関心を持ち，人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
⑤ 生命や医療に対する倫理観，コミュニケーション能力，チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
⑦ 看護職に夢を持ち，理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	81	○					
		小論文	12		○				
		面接			○	7			
		調査書	○	○		○			
	後期日程	共通テスト	83	○					
		面接			○	17			
		調査書	○	○		○			
	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○	○	64				
		面接				36			
		調査書・推薦書	○			○			
		自己推薦書				○			
	社会人	小論文	○	○	77				
		面接			○	23			

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は，幅広い教養と理工学基礎力を土台として，多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。以下に，理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では，基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで，理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ，複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は，基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然，文化，社会に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために，基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。また学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために，共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。
学部共通専門科目	理工学部としての共通の基礎学力を修得するために，高等学校で履修する数学，物理，化学，情報を中心とした理数系科目に関する基本的理解と，理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

理工学分野で学習する概念や法則，その応用や技術革新を理解するためには，まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学・情報を土台とした基礎学力，そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには，高等学校で履修する数学の基礎的理解が不可欠です。さらに，自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは，学びの視野を広げることに繋がります。そのため，高等学校で学ぶ数学・理科・情報については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方，専門科目に限らず，大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には，文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって，高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに，日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので，英文の基礎的な読解力だけでなく，自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

上記のことに加え，自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と同カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ，広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために，高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには，微分積分，線形代数，集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには，高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに，自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは，学びの視野を広げることに繋がります。そのため，高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方，専門科目に限らず，大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には，文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって，高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに，日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので，英文の基礎的な読解力だけでなく，自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。

データサイエンスコース・知能情報システムコース（情報分野）

情報分野を構成するデータサイエンスコースと知能情報システムコースでは，データサイエンス又は知能情報システムにおける専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち，他者と協力して，この社会（地域社会・国際社会・産業界等）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 （データサイエンスコース）	データサイエンス分野の基礎的な知識と技能を修得するために，高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，データサイエンス分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 （知能情報システムコース）	知能情報システム分野の基礎的な知識と技能を修得するために，高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

情報分野では，社会の第一線で活躍できるように，データサイエンス又は知能情報システムに関連した様々な専門科目を学びます。また，文書作成，口頭発表，技術英語を修得するとともに，実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性，自主的学習能力，情報収集能力なども育成します。そのためには，入学時点で，数学，情報，理科などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要です。また，国語，英語，社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うためには，必要な基本的な思考力・判断力・表現力も重要です。そして，常日頃からデータサイエンス又は情報工学に関する出来事に興味を持ち，これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。高校等での学習においては，教科書レベルの問題を解く能力を求めます。また，情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し，情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに，社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し，社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして，高い学習意欲を持ち，知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

化学コース（化学分野）

化学コースでは，化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	基礎から応用にわたる化学の幅広い知識を体系的に身に付けていくために必要な専門科目の講義を，無機化学，有機化学，物理化学，分析化学，化学工学の５つの分野で構成・配置し，理解と実践力を修得します。したがって，高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，化学を通して社会に役立つ能力，及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，指導教員の下，総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は，さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために，それらを詳細に調べ，新しい物質の合成や分析を行います。そのため，既存物質の特性を正確に把握し，必要な仮説と検証実験，そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには，高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また，実験等で取得したデータ解析には，計算能力や数学的思考力が求められ，物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって，高等学校で学習する数学，物理及び生物の基礎学力は，化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに，新しい知識や技術を身につけるためには，外国の文献等にも目を通す必要があり，基礎的な英文読解力が求められます。一方，専門科目に限らず大学の講義や演習では，情報の収集，文献読解及びレポートの作成など，情報収集力や文書作成能力が求められるため，高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは，物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ，広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために，高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では，グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
専門科目（選択）	物理学の思考力，表現力及び数学の各分野における論理を理解するために，高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では，グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	３年次までの学習成果をもとに，社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには，高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解及び計算能力だけでなく，それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また，実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに，専門的な知識や考え方を修得するためには，海外の文献にも目を通すことが必要であり，高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方，専門科目に限らず大学の講義や演習では，情報の収集，文献読解及びレポートの作成など，情報収集力や文書作成能力が求められるため，高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械工学コース（機械工学分野）

機械工学コースでは，機械工学及びその関連の領域において，専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	機械工学に関する基礎的知識から総合的知識，技能を修得するために，高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，機械工学の観点からものづくりを実際に行うための課題発見・探求・解決能力を身につけるために，演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，指導教員の下で総合的な学習を通した実社会における諸問題の課題発見・探究・解決能力を習得するため，３年次までの教育課程について十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は，すべてのものづくりに欠かせない技術であり，今後も重要となる産業界の基となる学問です。修得するためには，高等学校で学ぶ数学，物理，化学の基本的事項を理解し，教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また，機械工学に関した講義の理解，レポート作成，プレゼンテーションにおいて，読解力や記述力などの国語能力，世界情勢や歴史，文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには，英文の読解や作成，コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通した社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気電子工学コース（電気電子工学分野）

電気電子工学コースでは，電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち，他者と協力して，地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適応に必要な能力や適性，さらに入学志願者に高等学校等の学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	電気電子工学コースでは，電磁気学，電気回路，電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体，プログラミング，システム制御，パワーエレクトロニクスなどについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために，数学と物理の理解力と応用力が必要です。また，電気電子工学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力，及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果をもとに，原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し，研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い，専門学修の総仕上げとします。そのためには，３年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持っていることは必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学分野では，社会の第一線で活躍できるように，電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また，文書作成，口頭発表，技術英語を修得するとともに，実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性，自主的学習能力，情報収集能力なども育成します。そのためには，入学時点で，数学，理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要で，教科書レベルの知識を有していることを求めます。また，国語，英語，社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして，常日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち，これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは，都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け，都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 （都市基盤工学コース）	社会基盤工学に関する基礎的知識，分析力，考察力だけでなく，安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために，高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 （建築環境デザインコース）	建築都市デザインに関する基礎的知識，分析力，考察力だけでなく，身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能，現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために，高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また，歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力，都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので，高等学校で履修する国語，地理，歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに，建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，各コースの指導教員の下，総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが，同時に自然環境や歴史，風土等との調和も必要です。都市工学分野では，都市や地域に関する理解，形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので，様々な社会的事象及び文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって，高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力，論理的思考を支える国語力，英語で書かれた文献の理解のための英語力，さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，志望分野への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「総合型選抜」，「帰国生徒選抜」の入試区分により，入学者を選考します。また，理工学分野への女性の参加を奨励するため，「学校推薦型選抜Ⅰ」と「総合型選抜Ⅱ」の入試区分において「女子枠」（注）を設け，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。
３年次 編入学試験	短期大学，専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業者で，さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし，入学者を選考します。

（注）女子枠では，様々な学習活動（グループ活動，実験，演習，卒業研究等）において自分の意見を積極的に述べたり，自分が持つ能力を発揮することで，学部の教育・研究活動を活性化できる女子学生を求めます。そして，専門分野に関する最先端の知識と技術を基盤に，多様な人材が活かされる場において臆することなく自分の考えやアイデアを発信し，革新的な発想やイノベーション創出に貢献できる人材として活躍することを期待しています。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 専門分野を理解するために必要な数学，理科に関する知識・技能と，これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と，これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
⑤ 専門分野に対する強い興味・関心
⑥ 主体的に学び続けようとする意欲と態度

⑦　本学部で学びたいという強い意欲
⑧　自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性
⑨　従来の枠にとらわれない柔軟な発想を持ち，理工学分野で多様な人材が活躍する社会の実現に向けて行動しようとする意欲

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選抜方法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	40	○	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	後期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	○	40	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	学校推薦型選抜Ⅰ（専門系 高校対象）	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ（普通系 高校対象）［一般枠］	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ（普通系 高校対象）［女子枠］	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜Ⅰ（全科対象）	適性検査	○	33							
		面接	○			○	(33)	(33)	○		
		活動実績報告書					(33)	(33)		(33)	
		志望理由書					○	○	(33)	○	
		調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜Ⅱ（全科対象）［一般枠］	共通テスト	91	○	○	○					
		志望理由書							(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)	
		調査書					(9)	(9)		(9)	
	総合型選抜Ⅱ（全科対象）［女子枠］	共通テスト	91	○	○	○					
		志望理由書							(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)	
		調査書					(9)	(9)		(9)	
		学修計画書					◎	◎		◎	◎
	帰国生徒	小論文	○	○			(50)	(50)			
		面接		○			(50)	(50)	(50)		
		提出書類	◎								

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．◎は，点数化はしないが，段階評価するもの（合否，ABC など）
ⅲ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅳ．☆は，加点評価

農学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

農学部では，農学及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身に付け，国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。農学部のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然，現代社会と生活に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	農学分野の基礎的な知識・技術とともに，課題発見と解決能力を修得するために，高等学校で履修する理科，数学を中心とした基礎的理解と応用力に加え，資料や情報を読み解くための国語力と英語力，その他幅広い教科・科目に関する知識を有することが不可欠です。また，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	高学年次での各研究室における卒業研究では，専門的な研究環境で専門知識と先端技術を修得することになります。そのため，低学年次における教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

生物資源科学科

農業に関わる学問に対する興味があり，生物の機能や自然環境について学習するための基礎学力として，高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。講義を理解してレポート等を作成・発表するためには，様々な文章を読む・文書を作成するという国語力，社会の仕組みや地理・歴史といった一般常識も必要です。専門的な知識や技術を得るためには，海外の文献にも目を通す必要があることから，専門についての英語を学習する為に高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。

農学において，実験や調査活動を自主的・継続的かつグローバルに行なうことは重要です。そのためには自然科学全般に対する知識欲と，勉強を続けるための目的意識を持ち，教員，先輩，友人，留学生など周囲の人々とコミュニケーションを持つ積極性が大事です。自らの学習活動や取り組みなどを通して，周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで，本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ意志」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，志望コースへの志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「学校推薦型選抜」，「総合型選抜」，「帰国生徒選抜」の入試区分により，入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために，私費外国人留学生を対象とし，入学者を選考します。
３年次 編入学試験	短期大学，専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業者で，さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

生物資源科学科

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
② 専門分野を理解するために必要な数学に関する知識・技能と，これらを踏まえた数理的な思考力・判断力・表現力
③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる英語の読解力と表現力
④ 志望コースで学ぶために必要な基礎的な知識・技能
⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

全コース共通

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○			
		個別テスト等	○	20	20	○			
		特色加点					☆		☆
	後期日程	共通テスト	73	○	○	○			
		個別テスト等	○	27		○			
		特色加点					☆		☆

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅲ．☆は，加点評価

生物科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	学校推薦型選抜Ⅰ（専門系高校対象）	基礎学力・学習力テスト				40			
		小論文				20			
		面接					20		
		活動実績報告書					(20)		
		推薦書							
		調査書	(20)						
	総合型選抜Ⅱ（全科対象）	共通テスト	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書					(18)		(18)
		調査書	(18)						
	帰国生徒	小論文				40			
		面接					40		
		提出書類	20						

数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）

食資源環境科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	学校推薦型選抜Ⅰ（専門系高校対象）	基礎学力・学習力テスト				17			
		小論文				33			
		面接				33			
		活動実績報告書					(17)		
		推薦書							
		調査書	(17)						

選抜方法	総合型選抜Ⅱ（全科対象）	共通テスト	90						
		志望理由書						(10)	
		活動実績報告書					(10)		(10)
		調査書	(10)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）

生命機能科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	学校推薦型選抜Ⅰ（専門系高校対象）	基礎学力・学習力テスト				8			
		小論文				33			
		面接					33		
		活動実績報告書					(25)		
		推薦書							
		調査書	(25)						
	総合型選抜Ⅱ（全科対象）	共通テスト	84						
		志望理由書						(16)	
		活動実績報告書					(16)		(16)
		調査書	(16)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）

国際・地域マネジメントコース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力３要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	総合型選抜Ⅱ（全科対象）	共通テスト	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書					(18)		(18)
		調査書	(18)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）

コスメティックサイエンス学環

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

コスメティックサイエンス学環では，コスメティックサイエンス及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身に付け，国内外での化粧品及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。コスメティックサイエンス学環のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然，文化，社会に関する基礎的な知識を修得するために，専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに，外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために，現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく，学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
基礎科目	理数系の基礎学力を修得するために，高等学校で履修する数学，物理，化学，生物の基本的理解と，理学分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（理学系・農学系）	コスメティックサイエンスの知識の習得に必要な，化学と生物の基礎的な分野の理解と実践力を養います。そのため，高等学校で履修する化学及び生物の基礎的理解と応用力が不可欠です。
コア科目（基盤融合科目・実践研究科目）	有機化学と生化学を基礎として，コスメティックサイエンスの視点から物質の安全性，開発過程，製造工程などを通して体系的に理解します。それまでに学んだ他の専門科目の内容を十分に習得しておくことが必要です。また，コスメティックサイエンスのプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力，及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために，演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので，主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
学環周辺科目	コスメティックサイエンス分野と社会との接続を学んでいくためには，倫理観や責任感，未知なるものへの探究心や想像力，積極的な行動力や発信力が求められます。
卒業研究	３年次までの学習成果を踏まえ，指導教員の下，総合的な学習を通して自ら研究を計画・遂行していく能力を身に付けるために，３年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお，卒業研究は少人数形式で行うため，積極的に議論へ参加する態度や，周囲とのコミュニケーションを通じて，学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

コスメティックサイエンスは，化粧品の原料を主とするさまざまな物質や材料の構造や機能の関係性・安全性を明らかにするために，それらを詳細に調べ，新しい物質の合成や分析を行います。そのため，既存物質の特性を正確に把握し，必要な仮説と検証実験，そして得られた結果の論理的説明が求められます。このようにコスメティックサイエンスを専門的に学ぶためには，高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また，実験等で取得したデータ解析には，計算能力や数学的思考力が求められ，物質の生化学的性質を理解するためには生物学の知識が必要となります。したがって，高等学校で学習する数学，生物の基礎学力は，コスメティックサイエンスを専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに，新しい知識や技術を身につけるためには，外国の文献等にも目を通す必要があり，基礎的な英文読解力が求められます。一方，専門科目に限らず大学の講義や演習では，情報の収集，文献読解及びレポートの作成など，情報収集力や文書作成能力が求められるため，高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

上記のことに加え，学環の特徴を生かし，様々な学問分野の専門知識を身につけ，複眼的視点から本学環の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」をもった学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し，公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして，以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し，合格者を決定します。

本学環で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とし，「前期日程」と「後期日程」の入試区分により，入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し，本学環への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし，「総合型選抜」の入試区分により，入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と，これらを踏まえた基本的な思考力・判断力

② 専門分野を理解するために必要な数学, 理科に関する知識・技能と, これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力

③ コスメティックサイエンスの専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度

④ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学環の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④
学力３要素との対応			「知能・技能」	「思考力等」	「主体性等」	
選抜方法	前期日程	共通テスト	74	○		
		個別テスト等	○	26		
		特色加点			☆	☆
	後期日程	共通テスト	70	○		
		個別テスト等	○	30		
		特色加点			☆	☆
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	95	○		
		志望理由書			（５）	（５）
		活動実績報告書				
		調査書	○			

ⅰ．数値は，各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト［%］）
ⅱ．○は，間接的に評価したり，内容を確認するもの
ⅲ．☆は，加点評価

Ⅳ　募集人員

学部・学環，学科・課程等名 ＼ 募集人員等				入学定員	募集人員									備考
					一般選抜		特別選抜							
					前期日程	後期日程	学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）	学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）	総合型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）	総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）	佐賀県推薦入学	帰国生徒	社会人	
教育学部	共同教員養成課程	小中連携教育コース	小学校教育主免専攻	70	38	10	10		10	2				○小学校教育主免専攻の学校推薦型選抜における募集人員10人は，佐賀県枠で募集します。 ○教育支援探究コース（学校推薦型選抜は除きます。）は，入学後それぞれの専攻に分かれます。
			中学校教育主免専攻	25	10	5	－		8	2				
		教育支援探究コース	発達支援専攻	25	15	5	－	－	－	－	－	－	－	
			特別支援教育専攻				5		－	－				
		小計		120	63	20	15		18	4				
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	美術・工芸分野	55	27	8	－	－	10	－	－	－	－	○芸術表現コース（一般選抜）及び地域デザインコースは，２年次にそれぞれの分野に分かれます。 ○芸術表現コース（特別選抜）は，２年次に出願時に選択した分野に分かれます。
			有田セラミック分野				3		7	－				
		地域デザインコース	地域コンテンツデザイン分野	55	25	15	－	－	15	－	－	－	－	
			キュレーション分野											
			フィールドデザイン分野											
		小計		110	52	23	3		32	－				
経済学部	経済学科			230	110	25	70	－	－	25	－	－	－	○学校推薦型選抜Ⅰの募集人員は各募集枠の人数を合わせた数です。詳細は38ページをご確認ください。
医学部	医学科			101 ＊1	51	－	－	40 ＊2	－	－	10	若干人	－	○医学科の学校推薦型選抜における募集人員40人は，一般枠18人，佐賀県枠22人とします。＊２
	看護学科			60	35	5	20	－	－	－	－	－	若干人	
	小計			161	86	5	20	40			10	－	－	
理工学部	理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	500	(15)	(5)	－		2	2				○１年後期にそれぞれのコースに分かれます。特定の分野で合格した学生は，合格した分野内のコースに配属されます。学科一括枠で合格した学生は，本人の希望と１年前期の成績により配属されます。＊３ ○一般選抜は，７分野及び学科一括枠から順位を付けて第３志望まで志望できます。ただし，学科一括枠は第１志望でのみ選択可能とします。 ○学校推薦型選抜Ⅰと総合型選抜Ⅱの募集人員の内訳については，42，52ページをご確認ください。 ○前期日程及び後期日程における分野及び学科一括枠の募集人員は目安人数です。定員充足については，学科単位で行います。
		情報分野	データサイエンスコース		(61)	(24)	8		11	11				
			知能情報システムコース											
		化学分野	化学コース		(35)	(16)	2		5	15				
		物理学分野	物理学コース		(13)	(4)	－		7	5				
		機械工学分野	機械工学コース		(39)	(10)	4	－	5	12	－	若干人	－	
		電気電子工学分野	電気電子工学コース		(32)	(10)	4		4	14				
		都市工学分野	都市基盤工学コース		(42)	(18)	3		4	8				
			建築環境デザインコース											
		学科一括枠			(44) ＊3	(6) ＊3	－		－	－				
	小計			500	281	93	21		38	67				
農学部	生物資源科学科	生物科学コース		155	82	36	3			11	－	若干人	－	○２年次にそれぞれのコースに分かれます。
		食資源環境科学コース					2			5				
		生命機能科学コース					1	－	－	10				
		国際・地域マネジメントコース					－			5				
	小計			155	82	36	6			31				
コスメティックサイエンス学環				30	18	5	－	－	－	7				
合計				1,306	692	207	135	40	88	134	10			

（備考）後期日程の募集人員には，帰国生徒選抜及び社会人選抜の募集人員（若干人）を含みます。（医学部医学科は、一般選抜前期日程の募集人員に含む。）

＊１　医学科の入学定員101名は，文部科学省等に申請予定である地域の医師確保のための入学定員増が認可された場合の人数（３人）を含むものであり，現時点において確定した人数ではありません。確定次第，ホームページ等でお知らせします。

＊２　地域の医師確保のための臨時定員増において増員数（３人）が削減あるいは廃止となった場合，学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）の入学定員数（18人）を削減し，他の選抜の入学定員数を確保する場合があります。

＊３　学科一括枠から各分野への目安配属数は，数理分野：数理サイエンスコース（１人），情報分野：データサイエンスコース・知能情報システムコース合わせて（７人），化学分野：化学コース（２人），物理学分野：物理学コース（５人），機械工学分野：機械工学コース（13人），電気電子工学分野：電気電子工学コース（16人），都市工学分野：都市基盤工学コース・建築環境デザインコース合わせて（６人）。

Ⅴ　出願資格

1　一般選抜

志望する学部・学環，学科・課程・コース・専攻（以下「学部・学科等」といいます。）が指定する令和９年度大学入学共通テストの所定の教科・科目を受験し，かつ，次のいずれかに該当する者とします。

① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者

② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年３月修了見込みの者

③ 学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者

学校教育法施行規則
第150条　学校教育法第90条第１項の規定により，大学入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

1　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
2　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
3　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
4　文部科学大臣の指定した者
5　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
5の２　学校教育法第90条第２項の規定により大学に入学した者であって，高等学校卒業程度認定審査規則（令和４年文部科学省令第18号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
6　学校教育法第90条第２項の規定により大学に入学した者であって，当該者をその後に入学させる大学において，大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
7　大学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達したもの

（注）同条第７号により出願を希望する者は，事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により，入学資格の認定を受けようとする者は，2026年８月21日㈮までに申請するものとします。

ただし，他大学において入学資格の認定を受け，令和９年度大学入学共通テストに出願し，受理された者については，2027年１月15日㈮までに申請するものとします。

申請書類を郵送する場合は必ず書留郵便とし，封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書きの上，学務部入試課に送付してください。

2　特別選抜及び私費外国人留学生入試

38ページから58ページを参照してください。

3　一般選抜及び特別選抜における共通事項

大学入学共通テストを課す選抜において，学部・学科等が指定した大学入学共通テストの教科・科目を１つでも受験しなかった者は，無資格者とします。

また，佐賀大学が課す個別テスト等において，学部・学科等が指定した教科・科目等を１つでも受験しなかった者は，失格とします。

Ⅵ　選抜方法

入学者の選抜は，一般選抜及び特別選抜並びに私費外国人留学生入試により行います。
本学では，大学入学共通テストの過年度成績は利用しません。

一般選抜

⑴　大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト（以下「個別テスト」という。）等の成績，調査書の内容を総合的に判断し，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。

　大学入学共通テスト及び個別テスト等において，受験が必要な教科・科目は30，31ページに記載しています。

　医学部医学科（前期日程）においては，入学志願者が，募集人員を上回り，試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（募集人員の約５倍）に，２段階選抜を実施します。

⑵　採点・評価基準，合否判定基準は，募集要項に掲載します。

⑶　後期日程入学手続締切期日（2027年３月27日㈯）までに入学手続完了者が入学定員に満たない場合は，原則として追加合格者を決定し補充しますが，欠員補充第２次募集を行うこともあります。

⑷　追加合格者の決定は2027年３月28日㈰から開始し，実施の有無については，３月28日㈰に本学ホームページでお知らせします。

⑸　追加合格者には，電話連絡により入学の意志を確認し，３月31日㈬を入学手続締切日とします。

定員補充について

⑴　特別選抜（総合型選抜，学校推薦型選抜等）の合格者数（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は，以下の入試で不足分の合格者を補充します。

○教育学部，芸術地域デザイン学部，経済学部，医学部，コスメティックサイエンス学環
　特別選抜　→　一般選抜（前期日程）

○理工学部
　学校推薦型選抜Ⅰ及び総合型選抜Ⅰ　→　総合型選抜Ⅱ
　総合型選抜Ⅱ　→　一般選抜（前期日程）

○農学部
　学校推薦型選抜Ⅰ　→　総合型選抜Ⅱ
　総合型選抜Ⅱ　→　一般選抜（前期日程）

⑵　一般選抜（前期日程）の合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は，一般選抜の後期日程で不足分の合格者を補充します。（医学部医学科を除く）

特別選抜及び私費外国人留学生入試

38ページから58ページを参照してください。

一　般　選　抜

1　2027年度一般選抜実施教科・科目

日程	学部, 学科等			募集人員	大学入学共通テスト																											2段階選抜	備考
					外国語							国語	数学				地理歴史, 公民							理科							情報	教科・科目数		
					英語		ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合, 地理探究	歴史総合, 日本史探究	歴史総合, 世界史探究	公共, 倫理	公共, 政治・経済	地理総合, 歴史総合, 公共	科目数	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点		
					リスニング	リーディング																												
前期	共同教員養成課程教育学部	小中連携教育コース	小学校教育主免専攻	地歴・公民2科目型	38	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	1	◎	6又は7·8		地歴・公民2科目型及び理科2科目型は出願時に選択
					200							200	200				200							100						30	930		
				理科2科目型			○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6·8		
							200					200	200				100							200						30	930		
			中学校教育主免専攻	地歴・公民2科目型	10	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	1	◎	6又は7·8		
					200							200	200				200							100						30	930		
				理科2科目型			○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6·8		
							200					200	200				100							200						30	930		
		教育支援探究コース			15	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1～2	○	○	○	○	○	1～2	◎	6又は7·8		地歴・公民・理から3
					200							200	200				100~200							100~200						30	930		
	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	3科目型		27	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	3·3		地歴・公民・数・理・情報から1
					200							200	(100)				(100)							(100)						(100)	500		
			4科目型			○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	0～2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0～1	◇	◇	◇	◇	◇	0～2	◇	3又は4·4		地歴・公民・数・理・情報から2 ただし数・理・情報から1は必須
					200							200	(0~200)				(0~100)							(0~200)						(100)	600		
		地域デザインコース			25	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	0～1	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	1	◇	5·5		数・情報から1
					200							200	(100)				100							100						(100)	700		
	経済学部	経済学科			110	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	1	◎	6·7			
					100							100	100				50							25						25	400		
	医学部	医学科			51	◎					1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○		2	◎	6·8	約5倍	
					140							140	140				70							140						10	640		
		看護学科			35	◎					1	◎		○	○	1	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○		2	◎	6·7		
					140							140	100				70							200						10	660		
	理工学部	理工学科			281＊	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6·8		＊分野及び学科一括枠の募集人員内訳については25ページをご確認ください。
					200							200	200				100							200						30	930		
	農学部	生物資源科学科			82	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6·8		
					100							150	100				50							200						30	630		
	コスメティックサイエンス学環				18	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6·8		
					100							100	200				50							100						25	575		
後期	教育学部	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免専攻			10	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	1	◎	6·6		
					200							200	200				200							200						30	1030		
		共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免専攻			5	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	1	◎	6·6		
					200							200	200				200							200						30	1030		
		共同教員養成課程 教育支援探究コース			5	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	1	◎	6·6		
					200							200	200				200							200						30	1030		
	芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース			8	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	3·3		地歴・公民・数・理・情報から1
					200							200	(100)				(100)							(100)						(100)	500		
		芸術地域デザイン学科 地域デザインコース			15	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	1	○	○	○	○	○	○	1	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	4·4		数・理・情報から1
					200							200	(100)				100							(100)						(100)	600		
	経済学部	経済学科			25	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	1	◎	5·6		地歴・公民・理から1
					200							200	200				(100)							(100)						30	730		
	医学部	看護学科			5	◎					1	◎		○	○	1	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○		2	◎	6·7		
					140							140	100				70							140						10	600		
	理工学部	理工学科			93＊	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6·8		＊分野及び学科一括枠の募集人員内訳については25ページをご確認ください。
					150							100	150				50							150						20	620		
	農学部	生物資源科学科			36	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6·8		
					100							100	100				50							200						30	580		
	コスメティックサイエンス学環				5	○	○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6·8		
					100							100	100				50							100						20	470		

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目, ○は必須教科の選択科目, ◇は選択教科, △は複数教科受験可能で, 高得点採用の科目, ☆は任意の申請。
② 配点に(　)を付している場合は選択教科。配点比率は大学入学共通テストと個別テスト等の配点比率を表示。
③ 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合, 2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
④ 大学入学共通テストでは『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合, 2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
⑤ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については, 36ページに記載。
⑥ 面接は, 評価が低い場合は不合格とすることがある。

日程	学科・課程等			個別テスト等																						特色加点	配点比率	備考
				外国語						国語		数学						理科				総合問題	小論文	実技	面接	その他	満点	教科数			
				英コミュⅠ	英コミュⅡ	英コミュⅢ	論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ	現代の国語	言語文化	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学C	物理基礎・物理	化学基礎・化学	生物基礎・生物	地学基礎・地学									
前期	小中連携教育コース	小学校教育主免専攻	地歴・公民2科目型	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△		△	△	△									400	2	☆	93:40	「英語」必須。 「国語」,「数学」は1科目又は2科目選択可。 「国語」と「数学」の2科目を受験した場合は高得点科目を採用
				200						(200)		(200)															20		
			理科2科目型	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△		△	△	△									400	2	☆	93:40	
				200						(200)		(200)															20		
		中学校教育主免専攻	地歴・公民2科目型	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△		△	△	△									400	2	☆	93:40	
				200						(200)		(200)															20		
			理科2科目型	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△		△	△	△									400	2	☆	93:40	
				200						(200)		(200)															20		
	教育支援探究コース			◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△		△	△	△									400	2	☆	93:40	
				200						(200)		(200)															20		
	芸術表現コース		3科目型																				◎			500			5:5	実技検査は描写表現3つから選択 (35ページ参照)
																							500						
			4科目型																				◎			400			6:4	実技検査は発想表現必須 (35ページ参照)
																							400						
	地域デザインコース																				◎					400		☆	7:4	総合問題については35ページ
																					400						15		
	経済学科			◎	◎	◎	◎	◎	◎																	200	1	☆	4:2	
				200																							15		
	医学科			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎		300	3		64:30	
				80								80						80						60					
	看護学科																						◎		◎	160			66:16	
																							100		60				
	理工学科											◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○							600	2	☆	93:60	
												360						240									30		
	生物資源科学科			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎		◎	◎	◎									400	2	☆	63:40	
				200								200															50		
	コスメティックサイエンス学環																	◎								200	1	☆	575:200	
																		200									25		
後期	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免専攻			◎	◎	◎	◎	◎	◎														◎			400	1	☆	103:40	
				200																			200				20		
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免専攻			◎	◎	◎	◎	◎	◎														◎			400	1	☆	103:40	
				200																			200				20		
	共同教員養成課程 教育支援探究コース			◎	◎	◎	◎	◎	◎														◎			400	1	☆	103:40	
				200																			200				20		
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																							◎		300			5:3	実技は描写・発想表現から1 (35ページ参照)
																								300					
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース			◎	◎	◎	◎	◎	◎																◎	300	1	☆	6:3	その他は問題解決・提案力テスト (35ページ参照)
				100																					200		15		
	経済学科																						◎			100		☆	73:10	
																							100				15		
	看護学科																							◎		120			60:12	
																								120					
	理工学科											△	△	△	△	△	△	△	△							400	1	☆	62:40	「数学」,「物理」,「化学」から1科目又は2科目選択。2科目受験した場合は高得点科目を採用。ただし「物理」と「化学」の2科目選択は不可。
												(400)						(400)									30		
	生物資源科学科											◎	◎		◎	◎	◎									200	1	☆	58:20	
												200															50		
	コスメティックサイエンス学環											△	△		△	△	△		△							200	1	☆	47:20	「数学」,「化学」から1科目又は2科目選択。 2科目受験した場合は高得点科目を採用。
												(200)						(200)									30		

☆「特色加点」の内容については34ページを参照

2　英語外部検定試験の一般選抜での利用について

積極的に英語の技能を活用し，主体的に考えを表現することができる学生を求めるとともに，英語のコミュニケーション能力を適切に評価するため，英語外部検定試験の結果を一般選抜（前期日程及び後期日程）に利用できます。

⑴　利用できる検定試験（４技能受検が必須）

①実用英語技能検定（２級以上（英検 CSE スコア2.0，英検 S-CBT，英検 S-Interview，英検（従来型）全て含む））

② TEAP（４技能）

③ GTEC（４技能）　Advanced，Basic，CBT タイプ（オフィシャルスコアに限る。）

④ TOEFL iBT

⑵　利用方法

○　検定試験の成績を換算表に基づき，大学入学共通テスト（英語）の得点に換算し，大学入学共通テスト（英語）の成績とみなして合否判定に利用します。

○　検定試験の換算点が，大学入学共通テスト（英語）の得点より高い場合に，検定試験の換算点を採用します。

○　大学入学共通テストの英語の「リーディング」（100点満点）と「リスニング」（100点満点）の合計点が100点を下回る場合には，換算表の基準を満たしていても検定試験の換算は行いません。

※聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は，「リーディング」（100点満点）が50点を下回る場合には，換算表の基準を満たしていても検定試験の換算を行いません。

⑶　換算表

実用英語技能検定	TEAP	GTEC（４技能）	TOEFL iBT※	共通テスト（英語）得点率
2,250以上	270以上	1,100以上	61以上	90％
2,150～2,249	235～269	1,000～1,099	52～60	80％
2,050～2,149	220～234	900～999	45～51	70％
2,049以下	219以下	899以下	44以下	対象外

※2026年１月21日以降に受検した場合においても，０～120スコアスケールで換算します。

⑷　申請方法

○　インターネット出願登録時に検定試験の種別及び受検情報を登録してください。

○　申請できる検定試験の成績は１件です。また，有効となる検定試験は，2025年４月１日以降に受検した検定試験に限ります。

○　インターネット出願登録時に検定試験の登録がない場合や出願期間内に成績証明書（写しを含む）が提出されなかった場合は利用できません。

○　インターネット出願登録時に誤った情報を登録した場合には利用できないことがあります。

○　インターネット出願時の入力及び提出書類

①　実用英語技能検定

インターネット出願登録時に実用英語技能検定の受検情報【個人番号，年度，受検回，試験成績】を入力してください。また，合格証明書（写し可），CSE スコア証明書（写し可），個人成績表（写し可）又はデジタル証明書のプレビュー画面（「合格証明書」並

びに「デジタル証明書に記載の内容」の部分を含めて印刷したもの）を提出してください。なお，１級・準１級・２級のうちいずれかの英検級の受検により発行されたCSEスコアのみ受け付けます。受検した級が不合格の場合でもCSEスコアが2,050点以上の得点があれば利用できます。

証明書サンプル

https://www.eiken.or.jp/eiken/result/img_sample_01.html

https://www.eiken.or.jp/eiken/result/img_sample_03.html

https://www.eiken.or.jp/eiken/digital-certificate/sample/

② TEAP（４技能）

インターネット出願登録時にTEAPの受検情報【Registration ID，受検年度，TEAPスコア】を入力してください。また，成績証明書（写し可）を提出してください。

証明書サンプル

https://www.eiken.or.jp/teap/result/

③ GTEC（Advanced,Basicタイプ）

インターネット出願時にGTEC（Advanced, Basicタイプ）の受検情報【成績番号※，GTECスコア】を入力してください。ベネッセコーポレーションのマナビジョン（URL：https://manabi.benesse.ne.jp/）又は「大学入試成績連携システム」専用サイト（URL：https://benesse-exam.benesse.ne.jp/exam/login/）から受検したGTECの「成績番号」を請求してください。付与された「成績番号」をインターネット出願登録画面の【個人番号】欄に入力してください。また，成績証明書裏面の成績番号貼付欄に「成績番号」を貼付し，成績証明書（写し可）を提出してください。（写しを提出する場合には必ず両面印刷して提出してください。）

※スコアレポートに表示している「EA」から始まる９桁の英数字です。

証明書サンプル

https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/offiicialscore.html

成績番号の請求方法

https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/gradenumber/

④ GTEC（CBTタイプ）

インターネット出願時にGTEC（CBTタイプ）の受検情報【Test ID※，GTECスコア】を入力してください。また，成績証明書（写し可）を提出してください。

※スコアレポートに表示している「GT」から始まる９桁の英数字です。

証明書サンプル

https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/offiicialscore.html

⑤ TOEFL iBT

インターネット出願時にTOEFL iBTの受検情報【スコア】を入力してください。また，Test Taker Score Report（PDF）を提出してください。さらに，必ずTOEFLを実施しているETSの個人アカウントにログイン後，送信を希望するスコアの試験を選択し，本学が指定するDIコードを選択のうえ，スコアの直送手続きを行ってください。

※手続き方法（https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/scores.html）

※受検日の前日午後10時までにスコア送信手続きを行うことで，最大４機関まで無料でスコアを送付することが可能です。その場合は，アカウント左側の『My Tests』より受検予定の試験を選択し，本学指定のDIコード【8267】を利用して，送信先の設定を行ってください。

⑸ 大学入学共通テストの受験について

英語外部検定試験の利用を申請した場合においても，大学入学共通テストの英語（リスニングを含む）を受験しなかった場合は失格となります。

3　特色加点制度について

「特色加点」とは，一般選抜における任意提出の書類審査です。大学入学共通テスト，個別テスト等の合計点（以下，「当初配点」という。）とは別に，加点枠を設けます。志願者本人が記載することを原則とします。申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。

志願者が取り組んできた活動を中心に，そこで培ったスキルや経験等が，大学入学後の学習や活動にどのように生かせるかを申請してください。申請する活動や実績は，主体的に取り組んだものであれば分野等は問いません。

評価については，「全国大会△位入賞は○点」といった採点ではなく，アドミッション・ポリシーの観点から定性的かつ総合的に評価します。したがって，志望学部の学びを理解し，入学後の学習や活動に何を生かせるかをしっかり考えてアピールしてください。アドミッション・ポリシーや入学後の学習との繋がりがまったく見えない申請内容は，加点の対象になりません。また，申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。

取組の具体例として，研究活動（探究型学習，課題研究，各種教育プログラムなど），課外活動（部活動や生徒会活動など），社会活動（ボランティア，地域活動など），資格・検定取得，コンテスト等の実績，海外留学経験，その他主体的な活動などが考えられます。

「特色加点」として申請できる取組の内容は，高等学校入学以降（あるいは中学校卒業以降）のものとします。過年度卒業者は卒業後の取組でも申請可能です。

【合否判定について】

大学入学共通テスト及び個別テスト等の成績，並びに「特色加点」により，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。合否判定は以下の手順で実施します。

⑴　芸術地域デザイン学部（地域デザインコース），経済学部，コスメティックサイエンス学環の取扱い

①　大学入学共通テスト得点と個別テスト等の得点を合計した成績上位者において，「特色加点」の配点により合格の可能性が生じる受験者までを「１次選考適格者」とします。

②　「２次選考」は，１次選考適格者に対し，大学入学共通テスト得点と個別テスト等の得点の合計点に，「特色加点」内容の採点結果を加えた総合得点にて合否判定を行います。その際，「特色加点」分を加えなくても合格基準点を上回る受験者に対しては「２次選考」を免除し，合格者とします。

③　「特色加点」を申請しなかった場合は，「特色加点」分は０点として扱います。

※合否結果の通知は最終結果のみとし，１次選考・２次選考別には行いません。

⑵　教育学部，理工学部，農学部の取扱い

①　個別テスト等を受験した申請者全員を採点し，合否判定を行います。

②　「特色加点」を申請しなかった場合は，「特色加点」分は０点として扱います。

4　2027年度個別テスト等の出題範囲及び試験方法について

⑴　数学

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲは全範囲から出題とします。

数学Ａは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」

数学Ｂは「数列」

数学Ｃは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」

ただし，教育学部（前期日程），農学部（前期日程，後期日程），コスメティックサイエンス学

環（後期日程）においては，数学Ⅲ及び数学Ｃの「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲としません。

⑵　総合問題
　文章（英文を含む）や資料（図表，写真，絵，地図など）を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問います。

⑶　問題解決・提案力テスト
　地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を，文章や図表，絵などにより，解答用紙に簡潔にまとめたものについて，企画力，発想力，表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。
　筆記用具については学生募集要項に掲載します。

5　芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について

⑴　前期日程
　出願時に「３科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現），「４科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では，１）～３）のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。
実技検査（描写表現）
　１）木炭による素描　　２）鉛筆による素描　　３）水彩による静物着彩
実技検査（発想表現）
　プレゼンテーションボードの作成
持参道具については，学生募集要項に掲載します。

⑵　後期日程
　出願時に１）～４）のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。
実技検査（描写表現）
　１）木炭による素描　　２）鉛筆による素描　　３）水彩による静物着彩
実技検査（発想表現）
　４）プレゼンテーションボードの作成
持参道具については，学生募集要項に掲載します。

6　2027年度大学入学共通テストの科目選択及び得点の取扱い等について

⑴　地歴・公民
１）学部・学科等が受験科目を１科目と指定している場合に２科目受験した場合の取扱いについては，「第１解答科目」の得点を採用します。
２）学部・学科等が受験科目を２科目と指定している際に，大学入試センターにおいて選択不可とされた科目の組合せで受験した場合は，無資格として取扱い，検定料の一部を返還します。

⑵　理科
１）２科目を指定する学部・学科等においては，同一名称を付した科目及び出題範囲を選択することはできません。
　例：『物理』と『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』（物理基礎と化学基礎の出題範囲を選択）などは不可。下線部が同一名称。

同一名称を付した科目及び出題範囲を選択した場合は，無資格として取扱い，検定料の一部を返還します。

2）学部・学科等が受験科目を１科目と指定している場合に２科目受験した場合の取扱いについては，「第１解答科目」の得点を採用します。

⑶ 数学

学部・学科等が受験科目を１科目と指定している場合に２科目受験した場合は，高得点の科目を採用します。

⑷ 複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）

複数教科間の科目採用については，高得点順とします。ただし，地歴・公民及び理科においては，「第１解答科目」を優先します。

⑸ 外国語

外国語において英語を選択した者については，リスニングが必須となり，欠席した場合は，失格となります。ただし，大学入試センターからリスニングを免除された者については，リーディング（100点満点）の得点を合計欄の点数に換算し利用します。

各学部の配点は，下表のとおりです。

学　部　等		日程	リーディング	リスニング	合　　計
教育学部		前　　期 後　　期	150点	50点	200点
		総合型選抜Ⅱ	75点	25点	100点
芸術地域デザイン学部		前　　期 後　　期	150点	50点	200点
経済学部		前　　期	75点	25点	100点
		後　　期	150点	50点	200点
		総合型選抜Ⅱ			
医学部		前　　期 後　　期	105点	35点	140点
		学校推薦型選抜Ⅱ	120点	40点	160点
		佐賀県推薦			
理工学部		前　　期	150点	50点	200点
		後　　期	112.5点	37.5点	150点
		総合型選抜Ⅱ	187.5点	62.5点	250点
農学部		前　　期 後　　期	75点	25点	100点
	生物科学コース 食資源環境科学コース 生命機能科学コース	総合型選抜Ⅱ	150点	50点	200点
	国際･地域マネジメントコース		100点	100点	200点
コスメティックサイエンス学環		前　　期	75点	25点	100点
		後　　期			
		総合型選抜Ⅱ			

特　別　選　抜

1　2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔教育，芸術，経済〕

出願資格・出願要件（全学部）

(1)　高等学校若しくは中等教育学校を2027年３月卒業見込みの者
(2)　特別支援学校の高等部を2027年３月卒業見込みの者
(3)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年３月修了見込みの者
(4)　高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で，合格した場合は確実に入学できる者
※　高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す

学部	学科・コース等	方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	小学校教育主免専攻 小中連携教育コース 共同教員養成課程	学校推薦型選抜Ⅰ［佐賀県枠］	10	×	(1)　佐賀県内の高等学校を2027年３月に卒業見込みの者 (2)　将来，佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲，資質，適性等を有する者 (3)　高等学校の調査書における学習成績の状況が4.3以上の者	調査書，推薦書，志望理由書	１次	佐賀県教育委員会による書類審査	11／1～11／6	—	11/18頃
							２次	基礎学力試験（外国語，数学），小論文，面接		11/28	12／7
	特別支援教育専攻 教育支援探究コース 共同教員養成課程	学校推薦型選抜Ⅰ	5	×	(1)　将来，特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2)　高等学校の調査書における学習成績の状況が3.8以上の者	調査書，推薦書		基礎学力試験（外国語），小論文，面接		11/28	12／7
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	学校推薦型選抜Ⅰ	3	×	学業成績，人物ともに特に優れ，芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者，又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意がある者	調査書，推薦書，ポートフォリオ		面接（口頭試問を含む），実技検査	11／1～11／6	11/28	12／7
経済学部	経済学科	学校推薦型選抜Ⅰ［商業系］	35	×	(1)　全体の学習成績の状況が4.3以上の者で，人物，学力について優れる者 (2)　2026年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書，推薦書，志望理由書，活動実績報告書(加点式)（任意）		基礎学力・学習力テスト(英語)，小論文，面接（口頭試問を含む）	11／1～11／6	11/27	12／7
		学校推薦型選抜Ⅰ［普通系］	35	×	(1)　社会科学にとりわけ関心があり，かつ，人物について優れ全体の学習成績の状況が4.0以上の者 ただし，次のうちいずれかの要件を満たす者 ①成績優秀な者（外国語については学習成績の状況4.3以上） ②社会事象についての分析や，社会的活動等において優れた実績があり，それを裏付ける資料のある者 ③個性的で積極性に富み，高等学校長が，大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し，推薦に価すると思われる者 (2)　2026年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む			基礎学力・学習力テスト(数学)，小論文，面接(口頭試問を含む)			

＊出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。
＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか，教職を目指す強い意志を持ち，教員になるための基礎的な資質，能力を兼ね備えているかを，調査書，推薦書，志望理由書等により評価します。 (2) 小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより，文章理解力，資料の内容に関する知識，論理的な思考力，文章構成力，表現力を評価します。 (3) 面接の評価基準 志望動機，学習意欲，積極性，コミュニケーション能力について評価し，将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。 (4) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを評価します。 (5) 合否判定基準 基礎学力試験の成績，小論文，面接，高等学校長の推薦書，調査書，志願者の志望理由書を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第１次選考（書類審査）を行い，その選考結果は，2026年11月18日㈬頃通知します。 第２次選考については，第１次選考合格者に対して小論文，面接及び基礎学力試験を行い，各成績評価と書類審査の評価を総合して合格者を決定します。	・外国語は英コミュⅠ，英コミュⅡ，英コミュⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ，論理・表現Ⅲ ・数学は数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ａの全範囲，数学Ｂは数列，数学Ｃはベクトルから出題
(1) 調査書・推薦書の評価基準 学業成績，修学状況，部活動，社会活動等を見ます。 (2) 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して，テーマの解釈，構成，論理の展開，視点の独自性，表現能力を見ます。 (3) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを評価します。 (4) 面接の評価基準 勉学意欲，特別支援教育への興味・関心等を見ます。 (5) 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書），小論文，基礎学力試験，面接の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・外国語は英コミュⅠ，英コミュⅡ，英コミュⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ，論理・表現Ⅲ
(1) 調査書，推薦書，ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科，科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 また，推薦書とポートフォリオでは，活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをＡ４用紙で５ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の採点・評価基準 芸術表現を通して地域社会を考え，発想力，コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて，当該分野に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し，当該分野に関する意欲の高さを評価します。 (3) 実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力，発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では，基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現では，基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書及びポートフォリオ），面接及び実技検査の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・実技検査 静物着彩・粘土による造形表現から１ 粘土による造形表現は，試験時に手びねり又はロクロ成形を選択 ・入学志願者が募集人員の約４倍を超えた場合は，書類（調査書，推薦書及びポートフォリオ）による第１次選考を行う場合がある
(1) 調査書等の採点・評価基準 学習状況，クラブ活動等を見ます。 (2) 活動実績報告書（加点式）の採点・評価基準（申請者のみ） アドミッション・ポリシーに応じて，これまでの活動・実績を評価します。 (3) 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上，それについての読解力，着眼力，思考力，文章表現力等を基準として評価します。 (4) 基礎学力・学習力テスト 志望学科に必要な基礎学力・学習力を評価します。 (5) 面接の採点・評価基準 口頭試問により社会への関心及び将来の学習意欲や高校生活の活動状況等について，アドミッション・ポリシーの観点から総合的に評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書等），小論文及び面接等の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・商業系（商業高等学校の全科を含む）・情報系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・活動実績報告書（加点式）について 「簿記」「情報」「英語」「商業経済」の４分野に関する資格・検定について，その難易度に応じて評価します。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科 ・出願要件の②については証明する資料を添付 ・活動実績報告書（加点式）について 校内外を問わず，高等学校在学中に主体的に取り組んだ活動や実績について申請してください。校内活動としては，体育系・文化系の部活動，生徒会活動，課題研究（探究型学習）など，校外活動としては，社会活動（ボランティア，地域活動），海外留学，スポーツ活動，文化・芸術活動，検定・資格取得，課題研究（探究型学習）などが該当します。なお，「課題研究（探究型学習）」に関する活動とは，校内外を問わず，高等学校在学中に取り組んだ課題研究（探究型学習）に関する活動です。高等学校の総合的な探究の時間等での課題研究（探究型学習）といった校内活動，大学（本学又は他大学）による高校生対象の課題研究（探究型学習）や，国・地方公共団体・企業・大学等が実施する課題研究型コンテストへの出場（ビジネスプランコンテスト，まちづくりプランコンテスト，社会科学系の論文コンテスト等）といった校外活動が該当します。 申請がなければ当初配点で合否判定を行います。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います

2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔医，農〕

出願資格・出願要件（全学部）

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年３月卒業見込みの者
(2) 特別支援学校の高等部を2027年３月卒業見込みの者
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年３月修了見込みの者
(4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で，合格した場合は確実に入学できる者
※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す

学部	学科・コース等		方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	看護学科		学校推薦型選抜Ⅰ	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来，病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 2026年４月以降に高等学校卒業を認められた者を含む	調査書，推薦書，自己推薦書	小論文，面接	11/１～11/６	11/28	12/７
農学部	生物資源科学科	生物科学コース		3	×	(1) 専門系の科及び総合学科を卒業見込みの者で学習成績，人物について優れ，自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 全体の学習成績の状況が4.3以上の者	調査書，推薦書，活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト(化学・生物)，小論文，面接	11/１～11/６	11/27	12/７
		食資源環境科学コース		2				基礎学力・学習力テスト(数学・英語)，小論文，面接（口頭試問を含む。）			
		生命機能科学コース		1				基礎学力・学習力テスト（化学），小論文，面接（口頭試問を含む。）			

＊出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。
＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ，論述式の試験を行うことにより，病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し，それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について，対話・口述を通して評価し，将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく，規則的生活習慣を保ち，学習意欲，積極性や協調性に富んでいるかを高等学校３年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 小論文，面接，高等学校長の推薦書，調査書等を総合してアドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお，面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	・推薦人数は各高校２人以内
(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。活動実績報告書では，申請された活動実績の内容について，「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 (2) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，考察力，論理的思考力，表現力及び記述力を見ます。 (3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望コースに対する意欲等について，評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書，活動実績報告書等），小論文及び面接等の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・農業系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から２人以内 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・農業系の科，工業系の科及び総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から２人以内 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・農業系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から１人 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います

2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔理工〕

出願資格・出願要件（全学部）

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年３月卒業見込みの者
(2) 特別支援学校の高等部を2027年３月卒業見込みの者
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年３月修了見込みの者
(4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で，合格した場合は確実に入学できる者
※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す

学部	学科・コース等			方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	試験			
									試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
理工学部	理工学科	情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ［専門系］	2	×	専門系の科及び総合学科を卒業見込みの者で学習成績，人物ともに優れ，科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	調査書，推薦書，活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト（数学），小論文，面接（口頭試問を含む。）	11/1 ～11/6	11/27	12/7
		化学分野	化学コース		2				基礎学力・学習力テスト（数学・化学），小論文，面接（口頭試問を含む。）			
		機械工学分野	機械工学コース		4				基礎学力・学習力テスト（数学・物理），小論文，面接（口頭試問を含む。）			
		電気電子工学分野	電気電子工学コース		4							
		都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		3							
		情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ［普通系一般枠］	3		・普通科，理数科又はこれに準ずると本学部が認める科を卒業見込みの者で学習成績，人物ともに優れ，科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 ※女子は，学校推薦型選抜Ⅰ［普通系女子枠］との併願可	調査書，推薦書，活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト（数学），小論文，面接（口頭試問を含む。）			
		情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ［普通系女子枠］	3		・普通科，理数科又はこれに準ずると本学部が認める科を卒業見込みの女子で学習成績，人物ともに優れ，科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 ※学校推薦型選抜Ⅰ［普通系一般枠］との併願可					

＊出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。
＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は，面接時の口頭試問で確認しますので，根拠資料は公的な証書に限らず，個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。 (3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，考察力，論理的思考力，表現力及び記述力を見ます。 (4) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また，口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識，及び活動実績報告書の内容等について評価します。 (5) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書，活動実績報告書等），小論文及び面接等の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・専門系の科，総合学科の情報分野に関係する専門教育に関する科目の単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
	・工業系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
	・機械系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
	・電気・電子・情報系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
	・土木・建築系の科，総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は，面接時の口頭試問で確認しますので，根拠資料は公的な証書に限らず，個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。 (3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，考察力，論理的思考力，表現力及び記述力を見ます。 (4) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また，口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識，及び活動実績報告書の内容等について評価します。 (5) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書，活動実績報告書等），小論文及び面接等の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は，面接時の口頭試問で確認しますので，根拠資料は公的な証書に限らず，個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。 (3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，考察力，論理的思考力，表現力及び記述力を見ます。 (4) 面接の採点・評価基準 志望分野において卒業後のキャリアやそれを実現するために在学中に取り組みたいこと等について確認するとともに，自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また，口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識，及び活動実績報告書の内容等について評価します。 (5) 合否判定基準 書類（調査書，推薦書，活動実績報告書等），小論文及び面接等の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	

2　2027年度学校推薦型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔医〕

出願資格・出願要件（全学部）

(1)　高等学校若しくは中等教育学校を2027年３月卒業見込みの者
(2)　特別支援学校の高等部を2027年３月卒業見込みの者
(3)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年３月修了見込みの者
(4)　高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で，合格した場合は確実に入学できる者　　※　高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す

学部・学科等	方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準	外国語 英語 リーディング	外国語 英語 リスニング	外国語 ドイツ語	外国語 フランス語	外国語 中国語	外国語 韓国語	外国語 科目数
医学部医学科	一般枠	18(注)	(1) 高等学校における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来，病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 2025年４月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書，推薦書，自己推薦書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ，論述式の試験を行うことにより，病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し，それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について，対話・口述を通して評価し，将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく，規則的生活習慣を保ち，学習意欲，積極性や協調性に富んでいるかを高等学校３年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績，小論文，面接，高等学校長の推薦書，調査書等を総合してアドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお，大学入学共通テストの成績が本学部の基準を満たしていない場合，あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎						1
						160						
	佐賀県枠	22	(1) 高等学校における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち，将来，佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を2027年３月に卒業見込みの者又は2025年４月以降に卒業を認められた者で，次のいずれかに該当する者 ①佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ②佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち，佐賀県内の小学校，中学校のいずれかを卒業し，保護者が佐賀県内に2026年10月１日現在で３年以上継続して在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認） (4) 大学卒業後は，佐賀県内において３年間の勤務（原則として２年の初期臨床研修を含む連続した３年間）に従事することを確約できる者	調査書，推薦書，自己推薦書，志願理由書，確約書	一般枠と同じ								

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目，○は必須教科の選択科目。
② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず２出題範囲の選択が必要。この場合，２つの出題範囲を合わせて「１科目」として扱う。
③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については，36ページに記載。
④ 大学入学共通テストにおいて，必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。
（注）地域の医師確保のための臨時定員増において増員数（３人）が削減あるいは廃止となった場合，学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）の入学定員数（18人）を削減し，他の選抜の入学定員数を確保する場合があります。

3　2027年度佐賀県推薦入学特別選抜出願資格・選抜方法〔医〕

試験方法：大学入学共通テスト，小論文，面接　　出願期間：（１次）2026年10月13日～10月23日，（２次）2026年11月11日～11月16日
試験日：（１次）2026年11月７日，８日，（２次）2026年11月28日　　合格者発表日：（１次）2026年11月10日，（２次）2027年２月９日

学部・学科等	募集人員	出願資格及び出願要件	段階	提出書類	評価基準	外国語 英語 リーディング	外国語 英語 リスニング	外国語 ドイツ語	外国語 フランス語	外国語 中国語	外国語 韓国語	外国語 科目数
医学部医学科	10	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者） (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち，将来，佐賀県内での医療活動に従事し，県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を2027年３月に卒業見込みの者若しくは2024年４月以降に卒業を認められた者，又は，高等専門学校第３学年を2027年３月修了見込みの者若しくは2024年４月以降に修了した者で，いずれも高等学校等における調査書の学習成績概評がA段階に属する者（高等学校には，中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む） (4) 最終合格者は，必ず佐賀大学医学部に入学し，入学後は，「佐賀県医師修学資金」の貸与を６年間受けること及びキャリア形成プログラム（佐賀県が策定した医療法(昭和23年法律第205号）第30条の23第２項第１号に規定する計画）に同意することを確約できる者 (5) 大学卒業後は，キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムに基づき，①高度急性期機能の需要増加に対処するための医師（内科，小児科，外科，産婦人科，脳神経外科，麻酔科及び救急科），②総合的な診療能力を有する医師（総合内科及び総合診療科）等として佐賀県が指定する佐賀県内の医療機関で診療に従事することを確約できる者	１次	調査書，所信書，課題論文，確約書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ，論述式の試験を行うことにより，病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し，それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について，対話・口述を通して評価し，将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また，将来，佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく，規則的生活習慣を保ち，学習意欲，積極性や協調性に富んでいるかを，佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等，小論文，面接，大学入学共通テストの成績を総合的に判断して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお，大学入学共通テストの成績が本学部の基準を満たしていない場合，あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎						1
			２次	佐賀県からの推薦書								
						160						

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目，○は必須教科の選択科目。
② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず２出題範囲の選択が必要。この場合，２つの出題範囲を合わせて「１科目」として扱う。
③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については，36ページに記載。
④ 大学入学共通テストにおいて，必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

試験方法：大学入学共通テスト，小論文，面接　　　出 願 期 間：2026年11月１日～６日
試 験 日：2026年11月28日　　　合格者発表日：2027年２月９日

国語	数学				地理歴史，公民							理科						情報	教科科目数	小論文	面接	合計点	その他要件等
国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合，地理探究	歴史総合，日本史探究	歴史総合，世界史探究	公共，倫理	公共，政治・経済	地理総合／歴史総合／公共	科目数	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点				
◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○		2	◎	6・8	◎	◎	970	・推薦人数は各高校２人以内
160	160				80							160						10	730	150	90		
一般枠と同じ																							・保護者とは，子に対して親権を行う者，親権を行う者のないときは，未成年者後見人をいう。（本学における保護者の定義<学校教育法から引用>）

国語	数学				地理歴史，公民							理科						情報	教科科目数	小論文	面接	合計点	その他要件等
国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合，地理探究	歴史総合，日本史探究	歴史総合，世界史探究	公共，倫理	公共，政治・経済	地理総合／歴史総合／公共	科目数	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点				
◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○		2	◎	6・8	◎	◎	970	・佐賀県在住者だけでなく，日本国内の居住者を対象とする ・第１次選考については佐賀県健康福祉部医務課医療人材政策室に問い合わせ ・佐賀県が行う第１次選考を経て，佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第２次選考を受験する資格を得た者
160	160				80							160						10	730	150	90		

4　2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔教育，芸術〕

学部	学科・コース等	方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免専攻	総合型選抜Ⅰ	10	×	(1)　次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　英語，音楽，体育，家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く，その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3)　英語分野については実用英語技能検定（２級以上）（2050～）※１，TEAP（220～），GTEC（４技能）（900～），TOEFL iBT（45～）※２のいずれかの取得を出願要件とする。 有効となる検定試験は，2025年４月１日以降に受験した検定試験に限る。 (4)　入学後，初等教育を中心に学修を行う意欲を有し，将来，小学校等の教員になることを強く志望する者 (5)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書，志願理由書，活動実績報告書	小論文，面接（口頭試問を含む），志望分野に関する適性検査	９/10～９/17	10/９ 音楽分野，体育分野は10/９，10/10	11/２
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免専攻		8	×	(1)　次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　英語，音楽，保健体育，家庭，技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く，その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3)　英語分野については実用英語技能検定（２級以上）（2050～）※１，TEAP（220～），GTEC（４技能）（900～），TOEFL iBT（45～）※２のいずれかの取得を出願要件とする。 有効となる検定試験は，2025年４月１日以降に受験した検定試験に限る。 (4)　入学後，中等教育を中心に学修を行う意欲を有し，将来，中学校等の教員になることを強く志望する者 (5)　合格した場合は，確実に入学できる者					
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野		10	×	(1)　次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2026年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書，志願理由書，ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査，面接	９/10～９/17	10/10	11/２
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野		7	×					10/９	
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		15	×	(1)　次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書，志願理由書，活動実績報告書(加点式)(任意)	小論文，適性検査，面接		10/10	

＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。
※１　実用英語技能検定は，１級・準１級・２級のうちいずれかの英検級の受検により発行されたCSEスコアのみ受け付け，受検した級が不合格の場合でもCSEスコアが2050点以上の得点があれば出願要件を満たすものとします。
※２　TOEFL iBTは，2026年１月21日以降に受検した場合においても，０～120スコアスケールを使用します。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では，出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，外部の英語検定試験の成績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより，文章理解力，資料の内容に関する知識，論理的な思考力，文章構成力，表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機，専門領域に関する知識や理解，修学意欲，積極性，コミュニケーション能力等を評価し，将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書），小論文，面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：タブレット端末を用いた試験により，スピーキングを含む英語コミュニケーション能力を総合的に評価します。 音楽分野：専攻楽器(又は声楽)の個別レッスン２回，ソルフェージュの個別レッスン１回 体育分野：器械運動（マット運動），ダンス，ゴール型球技（バスケットボール），ネット型球技(バレーボール)，ベースボール型球技（ソフトボール），武道（柔道か剣道より選択）の６種目における技能 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成，個別発表及び質疑応答 ・入学志願者が多く，適性検査を適切に行うことが困難な場合は，書類（調査書，志願理由書及び活動実績報告書）により，第１次選考を行う
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では，出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，外部の英語検定試験の成績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより，文章理解力，資料の内容に関する知識，論理的な思考力，文章構成力，表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機，専門領域に関する知識や理解，修学意欲，積極性，コミュニケーション能力等を評価し，将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書），小論文，面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：タブレット端末を用いた試験により，スピーキングを含む英語コミュニケーション能力を総合的に評価します。 音楽分野：専攻楽器(又は声楽)の個別レッスン２回，ソルフェージュの個別レッスン１回 保健体育分野：器械運動（マット運動），ダンス，ゴール型球技（バスケットボール），ネット型球技(バレーボール)，ベースボール型球技（ソフトボール），武道（柔道か剣道より選択）の６種目における技能 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成，個別発表及び質疑応答 技術分野：与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり，プレゼンテーション及び質疑応答 ・入学志願者が多く，適性検査を適切に行うことが困難な場合は，書類（調査書，志願理由書及び活動実績報告書）により，第１次選考を行う
(1) 調査書，志願理由書，ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また，志願理由書とポートフォリオでは，活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをＡ４用紙で５ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の評価基準 熱意，修学意欲，積極性，主体性，発想力等を総合的に評価します。 (3) 適性検査の採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力，行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点，評価を行います。 (4) 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書及びポートフォリオ），適性検査及び面接の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 ・入学志願者が募集人員の約５倍を超えた場合は，書類（調査書，志願理由書及びポートフォリオ）による第１次選考を行う場合がある ・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 ・入学志願者が募集人員の約５倍を超えた場合は，書類（調査書，志願理由書及びポートフォリオ）による第１次選考を行う場合がある
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では，本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書（加点式）の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて，これまでの活動・実績を評価します。 (3) 面接の評価基準 熱意，修学意欲，積極性，主体性等を総合的に評価します。 (4) 小論文の採点基準 読解力，論理的思考力，分析力，考察力，企画力，発想力，表現力等を総合的に判断します。 (5) 適性検査の採点・評価基準 コミュニケーション能力，論理性，表現力等を総合的に評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書，活動実績報告書（加点式）〈申請者のみ〉），小論文，適性検査及び面接の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成，個別発表及び質疑応答 ・活動実績報告書（加点式）について 申請する活動・実績は，高等学校入学以降に取り組んだ主体的な活動や実績であれば何でも構いません。地域デザインコースの学びを理解し，入学後に何を生かせるかなどをしっかり考えた上で積極的にアピールしてください。申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。アドミッション・ポリシーで示す「地域社会が抱える問題に関心があり，芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力，発想力，表現力」，「主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力」，「高等学校入学以降の主体的な実績・活動」について総合的に評価します。活動・実績の具体例として，地域創生などに関わる主体的な活動，課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み，研究活動（高大連携活動〈SSH，SGH 等を含む〉，総合的な探究の時間等での活動実績），資格・検定試験など外部試験等の実績，海外留学経験，その他主体的な活動などが考えられます。 ・入学志願者が募集人員の約５倍を超えた場合は，書類（調査書，志願理由書及び活動実績報告書（加点式）（申請者のみ））による第１次選考を行う場合があります。 申請がなければ当初配点で合否判定を行います。

2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔理工〕

学部	学科	コース等		方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
									試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
理工学部	理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	総合型選抜Ⅰ	2	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 数理分野・・・・・・数学Ⅲ 情報分野・・・・・・数学Ⅲ 化学分野・・・・・・数学Ⅲ，化学 その他の分野・・・・数学Ⅲ，物理 (4) 合格した場合は，確実に入学できる者	調査書，志望理由書，活動実績報告書	適性検査，面接（口頭試問を含む）	11／1～11／6	11/28	12／7
		情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース		11							
		化学分野	化学コース		5							
		物理学分野	物理学コース		7							
		機械工学分野	機械工学コース		5							
		電気電子工学分野	電気電子工学コース		4							
		都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		4							

＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 書類審査（志望理由書，調査書）の採点・評価基準 志望理由書では，「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は，面接時の口頭試問で確認しますので，根拠資料は公的な証書に限らず，個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。 (3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また，口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識，及び活動実績報告書の内容等について評価します。 (4) 適性検査の採点・評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (5) 合否判定基準 書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書等），面接及び適性検査の各成績評価を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査の内容 数学の知識を活用した問題を出題することにより，知識のみならず論理プロセスも重視した数学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。出題範囲は，数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学B，数学Ⅲ，数学Cとします。 ・入学志願者が募集人員の約５倍を超えた場合は，書類（調査書，志望理由書，活動実績報告書）による第１次選考を行う場合があります。
	・適性検査の内容 問題文や資料等から処理手順を読み取り，そのアルゴリズムに関する論理的思考力を評価します。また，数学の知識を活用した問題を出題することにより，数学に対する適性を評価し，資料等を正しく読み解き，論理的に説明する能力も併せて評価します。出題範囲は，情報Ⅰ，数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学B，数学Ⅲ，数学C（「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」）とします（出題する内容に応じて，ペーパーテスト又は口頭試問により実施）。 ・入学志願者が募集人員の約2.5倍を超えた場合は，書類（調査書，志望理由書，活動実績報告書）による第１次選考を行う場合があります。
	・適性検査の内容 化学実験などに関する資料（動画や写真，図表など）を題材に，知識のみならず論理プロセスも重視した化学や科学的思考力に対する適性を評価します（タブレット端末で問題を提示し，解答用紙に解答）。
	・適性検査の内容 物理や数学の知識を活用した問題を出題することにより，知識のみならず論理プロセスも重視した物理に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。
	・適性検査の内容 機械工学に関連した事項を題材とした問題を出題することにより，高等学校で学ぶ知識のみならず問題解決能力や論理的思考力を重視した機械工学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。
	・適性検査の内容 電気及び力学に関する物理の問題を出題することにより，知識のみならず論理的思考力も重視した上で，電気電子工学に対する適性を評価します(ペーパーテストで実施)。
	・適性検査の内容 数学（数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学B，数学Ⅲ，数学C）と物理（力学・熱力学・エネルギー・波動）に関する融合問題により，知識のみならず論理的思考も重視した数学と物理の素養を評価します（ペーパーテストで実施）。

5　2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔教育，経済，農，コスメ〕

試験方法：大学入学共通テストの成績，書類審査　　出 願 期 間：2027年１月18日～１月28日
試 験 日：佐賀大学における小論文や面接等の試験は行いません。　　合格者発表日：2027年２月９日

学部・学科等		方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準
教育学部	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免専攻 理数分野	総合型選抜Ⅱ	2	(1)　次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　理数分野に関して特に意欲・関心が高く，その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3)　入学後，初等教育を中心に学修を行う意欲を有し，将来，小学校（理科，数学の専科）等の教員になることを強く志望する者 (4)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書	(1)　調査書の評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 (2)　志望理由書・活動実績報告書の評価基準 志望理由書では，出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 活動実績報告書では，志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免専攻 理数分野		2	(1)　次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　理数分野に関して特に意欲・関心が高く，その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3)　入学後，中等教育を中心に学修を行う意欲を有し，将来，中学校（理科，数学）等の教員になることを強く志望する者 (4)　合格した場合は，確実に入学できる者		(1)　調査書の評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 (2)　志望理由書・活動実績報告書の評価基準 志望理由書では，出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 活動実績報告書では，志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
経済学部	経済学科		25	(1)　次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　本学部での勉学を強く希望する者 (3)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書， 活動実績報告書	(1)　書類審査の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び本学部の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 活動実績報告書では，申請された活動実績の内容について，アドミッションポリシーに基づき評価します。 (2)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，活動実績報告書）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
農学部　生物資源科学科	生物科学コース		11	(1)　次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　各コースでの勉学を強く希望する者 (3)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書	(1)　書類審査の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及び生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志望理由書では，「本コースで学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では，申請された活動実績の内容について，「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 調査書，志望理由書及び活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら，総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (2)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	食資源環境科学コース		5			
	生命機能科学コース		10			
	国際・地域マネジメントコース		5			
コスメティックサイエンス学環			7	(1)　次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3)　合格した場合は，確実に入学できる者	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書	(1)　書類審査の採点・評価基準 調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願要件及びコスメティックサイエンス学環の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。志望理由書では，「本学環で学びたいという強い意欲」について評価します。活動実績報告書では，申請された活動実績の内容について，「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。調査書，志望理由書及び活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら，総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (3)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目，○は必須教科の選択科目，◇は選択教科。
② 配点に（　）を付している教科は，高得点の科目を採用する。ただし，「地理歴史，公民」及び「理科」において２科目受験した場合の高得点採用には，「第１解答科目」の得点を採用する。
③ 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず２出題範囲セットでの選択が必要。この場合，２つの出題範囲を合わせて「１科目」として扱う。
④ 大学入学共通テストでは『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は必ず２出題範囲セットでの選択が必要。この場合，２つの出題範囲を合わせて「１科目」として扱う。

分野等	大学入学共通テスト																												書類審査	合計点
	外国語						国語	数学				地理歴史，公民							理科						情報	教科科目数			
	英語		ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合，地理探究	歴史総合，日本史探究	歴史総合，世界史探究	公共，倫理	公共，政治・経済	地理総合，歴史総合，公共	科目数	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点			
	リーディング	リスニング																												
小学校教育主免専攻	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	880
	100						100	250				100							250					30	830	50			
中学校教育主免専攻	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1180
	100						100	400				100							400					30	1130	50			
－	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	4・5	◎	730
	200						200	200				(100)							(100)					(100)	700	30			
生物科学コース	○		○	○			1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1150
	200						200	200				100							200					50	950	200			
食資源環境科学コース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1050
	200						200	200				100							200					50	950	100			
生命機能科学コース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1000
	200						100	200				100							200					50	850	150			
国際・地域マネジメントコース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1150
	200						200	200				100							200					50	950	200			
—	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	500
	100						100	100				50							100					25	475	25			

⑤ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については，36ページに記載。
⑥ 理科２科目を指定する学部・学科等においては，同一名称を付した科目及び出題範囲を選択することはできません。
例：『物理』と『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』（物理基礎と化学基礎の出題範囲を選択）などは不可。下線部が同一名称。
⑦ 大学入学共通テストにおいて，必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔理工〕

試験方法：大学入学共通テストの成績，書類審査　　出 願 期 間：2027年１月18日～１月28日
試 験 日：佐賀大学における小論文や面接等の試験は行いません。　　合格者発表日：2027年２月９日

学部・学科等			方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準
理工学部　理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	総合型選抜Ⅱ［一般枠］	2	(1)　次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3)　以下に指定している科目を履修している者 数理分野……数学Ⅲ 情報分野……数学Ⅲ 化学分野……数学Ⅲ，化学 その他の分野……数学Ⅲ，物理 (4)　合格した場合は，確実に入学できる者 ※女子は，同分野に限り，総合型選抜Ⅱ［女子枠］との併願可	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書	(1)　書類審査（志望理由書，調査書）の採点・評価基準 志望理由書では，「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2)　書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。 (3)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース		9			
	化学分野	化学コース		13			
	物理学分野	物理学コース		3			
	機械工学分野	機械工学コース		10			
	電気電子工学分野	電気電子工学コース		12			
	都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		6			
	情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース	総合型選抜Ⅱ［女子枠］	2	(1)　次の各号のいずれかに該当する女子 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年４月以降に卒業した者及び2027年３月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年４月以降に修了した者及び2027年３月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で，2025年４月以降にこれに該当する者及び2027年３月31日までにこれに該当する見込みの者 (2)　志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3)　以下に指定している科目を履修している者 情報分野……数学Ⅲ 化学分野……数学Ⅲ，化学 その他の分野……数学Ⅲ，物理 (4)　合格した場合は，確実に入学できる者 ※同分野に限り，総合型選抜Ⅱ［一般枠］との併願可	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書， 学修計画書	(1)　書類審査（志望理由書，調査書）の採点・評価基準 志望理由書では，「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では，「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について，出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2)　書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では，志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば，研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録，校内外のイベント等での発表，回路・模型・プログラムなどの作成物，関連する資格への応募状況や取得状況，知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は，「専門分野に対する強い興味・関心」，「主体的に学び続けようとする意欲と態度」，「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して，本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の３つの観点から総合的に評価します。 (3)　書類審査（学修計画書）の採点・評価基準 学修計画書では，理工学分野において女性として活躍するために考えていること（例えば，卒業後の将来像（目標や目指すキャリア等）やその将来像を実現するために在学中に身に着けたいことや取り組みたいこと等）について確認します。 (4)　合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書，志望理由書，活動実績報告書，学修計画書等）を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	化学分野	化学コース		2			
	物理学分野	物理学コース		2			
	機械工学分野	機械工学コース		2			
	電気電子工学分野	電気電子工学コース		2			
	都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		2			

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目，○は必須教科の選択科目。
② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず２出題範囲の選択が必要。この場合，２つの出題範囲を合わせて「１科目」として扱う。

分野等	大学入学共通テスト																													書類審査		合計点
	外国語							国語	数学				地理歴史，公民							理科						情報	教科科目数			調査書，志望理由書，活動実績報告書	学修計画書	
	英語		ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合，地理探究	歴史総合，日本史探究	歴史総合，世界史探究	公共，倫理	公共，政治・経済	理総合，歴史総合，公共	科目数	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	物理	化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点				
	リーディング	リスニング																														
数理分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8		◎		1150
	250							100	450				100							100					50	1050		100		
情報分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8		◎		1300
	250							100	300				100							250					200	1200		100		
化学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	◎	○	○	2	◎	6・8		◎		1300
	250							100	300				100							400					50	1200		100		
物理学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		◎	○	○	○	2	◎	6・8		◎		1150
	250							100	300				100							250					50	1050		100		
機械工学分野	［一般枠］物理学分野と同じ																															
電気電子工学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8		◎		1150
	250							100	300				100							250					50	1050		100		
都市工学分野	［一般枠］物理学分野と同じ																															
情報分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8		◎	◎	1300
	250							100	300				100							250					200	1200		100	2段階評価	
化学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	◎	○	○	2	◎	6・8		◎	◎	1300
	250							100	300				100							400					50	1200		100	2段階評価	
物理学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		◎	○	○	○	2	◎	6・8		◎	◎	1150
	250							100	300				100							250					50	1050		100	2段階評価	
機械工学分野	［女子枠］物理学分野と同じ																															
電気電子工学分野	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	2	◎	6・8		◎	◎	1150
	250							100	300				100							250					50	1050		100	2段階評価	
都市工学分野	［女子枠］物理学分野と同じ																															

【注意事項】
③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については，36ページに記載。
④ 大学入学共通テストにおいて，必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

6　2027年度帰国生徒選抜，社会人選抜出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

学部	学科	方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	医学科	帰国生徒	若干人	×	日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって，外国の学校教育を受けた者のうち，保護者とともに２年以上継続して外国に在留し，次のいずれかに該当する者とします。 ただし，2025年３月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除く）した者及び保護者が帰国した後，本人が帰国するまでの期間が２年以上経過した者は，出願を認めません。 (1) 学校教育における12年の課程を2025年４月１日から2027年３月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で，原則として，外国において最終学年を含め，２年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし，外国に設置された学校等であっても，日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は，「２年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において，スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を2025年又は2026年に授与された者。 (3) ドイツ連邦共和国の各州において，大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (4) フランス共和国において，大学入学資格として認められているバカロレア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCEA レベル資格及び国際Ａレベル資格を取得した者。 (6) 欧州連合加盟国において大学入学資格として認められている欧州バカロレア資格を取得した者 (7) 国際的な評価団体（WASC，CIS，ACSI，NEASC，Cognia，COBIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において，12年の課程を修了した者。	証明書類	学力検査（数学・理科・外国語），面接	11/１ ～11/６	２/25 ～２/26	３/８
理工学部	理工学科		若干人		日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって，外国の学校教育を受けた者のうち，次のいずれかに該当する者とします。 (1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において，2025年４月１日から2027年３月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で，卒業（修了）時点から起算して過去４年間の内，外国において２年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし，外国に設置された学校等であっても，日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は，「２年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において，スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を2025年又は2026年に授与された者。 (3) ドイツ連邦共和国の各州において，大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (4) フランス共和国において，大学入学資格として認められているバカロレア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCEA レベル資格及び国際Ａレベル資格を取得した者。 (6) 欧州連合加盟国において大学入学資格として認められている欧州バカロレア資格を取得した者 (7) 国際的な評価団体（WASC，CIS，ACSI，NEASC，Cognia，COBIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において，12年の課程を修了した者。		小論文，面接（口頭試問を含む）		11/27	12/７
農学部	生物資源科学科		若干人							
医学部	看護学科	社会人	若干人	×	2027年４月１日現在，年齢が満21歳以上であり，社会人として３年以上の経験を有し，看護学を修め，卒業後看護の分野で就業する意思のある者で，次のいずれかに該当する者とします。 (1) 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」と言う）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 注）社会人の期間には，パートやアルバイトの就業期間及び学校等（予備校，大学，専修学校高等課程・専門課程）の在学期間は含まない	調査書等，成績証明書，志願理由書	小論文，面接	11/１ ～11/６	11/28	12/７

＊「共テ」とは大学入学共通テストを示す。
※帰国生徒選抜における「出願資格及び出願要件(7)」にCOBISを追記しました。（2026.7）

評価基準	その他要件等
(1) 学力検査の教科名・科目名等 数学　数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C（注） 理科　物基・物，化基・化 外国語　英コミュⅠ，英コミュⅡ，英コミュⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ，論理・表現Ⅲ （注）数学は，数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲは全範囲から出題します。数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」，数学Bは「数列」，数学Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲とします。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について，対話・口述を通して評価し，将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 合否判定基準 学力検査，面接，提出書類を総合してアドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。 学力検査及び面接の配点 ・数学　80点 ・理科　80点 ・外国語　80点 ・面接　120点　（総合得点360点） なお，面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，解釈力，論理的思考力，表現力及び記述力等を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識，自己の目標，志望学科に対する意欲を問います。 (3) 合否判定基準 書類（成績証明書等），小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 書類審査，小論文及び面接の配点 書類審査２段階評価（適・否），小論文100点，面接100点（総合得点200点）	
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて，解釈力，論理的思考力，表現力及び記述力等を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識，自己の目標，志望学科に対する意欲を問います。 (3) 合否判定基準 書類（成績証明書等），小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 書類審査並びに小論文及び面接の配点 書類審査100点，小論文200点，面接200点（総合得点500点）	
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ，論述式の試験を行うことにより，病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し，それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 これまでの社会人としての経験を生かした，看護学科志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について，対話・口述を通じて評価し，将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 なお，志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。 (3) 合否判定基準 小論文及び面接の結果を総合して，アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 小論文及び面接の配点 小論文200点，面接60点（総合得点260点） なお，面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	

7　2027年度学校推薦型選抜Ⅰ，総合型選抜Ⅰの配点について

学校推薦型選抜Ⅰ

学部，学科・課程等名 ＼ 区分			書類審査（注１）	小論文	面接	実技検査	その他	大学入学共通テスト	総合得点（総合評価）	活動実績報告書（加点式）
教育学部	共同教員養成課程	小中連携教育コース 小学校教育主免専攻［佐賀県枠］	50	100	150		200（注２）		500	
		教育支援探究コース 特別支援教育専攻	50	150	150		50（注２）		400	
芸術地域デザイン学部		芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	300		200	300			800	
経済学部	経済学科	商業系の科・情報系の科・総合学科推薦	2段階評価（合，否）	100	2段階評価（合・否）		20（注３）		2段階評価（合，否）（注４）	40
		普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦								20
医学部	看護学科			320	180				500	
理工学部	理工学科	データサイエンスコース 知能情報システムコース ［専門系］	100	100	100		100（注３）		400	
		化学コース ［専門系］								
		機械工学コース ［専門系］								
		電気電子工学コース ［専門系］								
		都市基盤工学コース 建築環境デザインコース ［専門系］								
		データサイエンスコース 知能情報システムコース ［普通系一般枠］								
		データサイエンスコース 知能情報システムコース ［普通系女子枠］								
農学部	生物資源科学科	生物科学コース	100	100	100		200（注３）		500	
		食資源環境科学コース	100	200	200		100（注３）		600	
		生命機能科学コース	150	200	200		50（注３）		600	

（注１）調査書，推薦書等
（注２）基礎学力試験
（注３）基礎学力・学習力テスト
（注４）活動実績報告書（加点式）の得点を加味して評価します。

総合型選抜Ⅰ

学部，学科・課程等名 ＼ 区分				書類審査（注１）	小論文	面接	適性検査	大学入学共通テスト	総合得点（総合評価）	活動実績報告書（加点式）
教育学部	共同教員養成課程	小中連携教育コース	小学校教育主免専攻	100	100	150	200（注２）		550	
			中学校教育主免専攻							
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	美術・工芸分野	300		300（注３）	200		800	
			有田セラミック分野	200		200（注３）	400		800	
		地域デザインコース		2段階評価（合，否）	300	200	500（注４）		1000	100
理工学部	理工学科	数理サイエンスコース		100		100	100		300	
		データサイエンスコース 知能情報システムコース								
		化学コース								
		物理学コース								
		機械工学コース								
		電気電子工学コース								
		都市基盤工学コース 建築環境デザインコース								

（注１）調査書，志願理由書等
（注２）適性検査の評価に活動実績報告書の評価も含みます。
（注３）面接は適性検査に関する質疑応答を含みます。
（注４）プレゼンテーション資料作成の評価を300点，プレゼンテーション及び質疑応答の評価を200点とします。

Ⅶ　私費外国人留学生入試

本学では，私費外国人留学生のために特別の学力検査等を実施します。

1　出願資格

日本の国籍を有しない（日本国の永住許可を得ていない）者で，独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（2026年６月又は2026年11月実施のいずれか）を受験し，TOEFL を受験済みの者（経済学部を除く。）で，次に掲げるいずれかの入学資格を有する者

⑴　日本国外において，学校教育による12年の課程を修了した者及び2027年３月までに修了見込みの者

⑵　上記⑴に準ずる者で，文部科学大臣の指定する者

2　募集人員

各学部（教育学部，芸術地域デザイン学部，経済学部，医学部(医学科)，理工学部，農学部）とも若干人

3　入学者選抜方法

⑴　教育学部，芸術地域デザイン学部，経済学部，理工学部，農学部

入学者の選抜は，次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及び TOEFL の成績（経済学部を除く。）並びに本学が行う学力検査・面接等の成績を総合的に判断し，アドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。

⑵　医学部（医学科）

入学者の選抜は，次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及び TOEFL の成績並びに本学が行う学力検査・面接を総合的に判断し，アドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。

※学力検査の教科・科目名等

数　学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C（注）
理　科	物基・物，化基・化
外国語	英コミュⅠ，英コミュⅡ，英コミュⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ，論理・表現Ⅲ

（注）数学は，数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲは全範囲から出題します。数Aは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」，数Bは「数列」，数Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲とします。

事項		教育学部		芸術地域デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
				芸術表現コース	地域デザインコース				
日本留学試験	利用する回の指定	6月，11月のいずれか							
	出題言語の指定	日本語		日本語		日本語	日本語	日本語又は英語	日本語
	文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	科目 日本語	○	○	○		○	○	○	○
	科目 理科		○				○	○	○
	科目 数学(コース1)	△	△	△		○			
	科目 数学(コース2)	△	△	△			○	○	○
	科目 総合科目	○		○		○			
	科目 理科の選択科目		「物理」,「化学」,「生物」から2科目選択				「物理」,「化学」,「生物」から2科目選択	「物理」,「化学」,「生物」から2科目選択	「物理」,「化学」,「生物」から2科目選択
TOEFL（注4）		○		○			○	○	○
学力検査等		面接，日本語（作文）		面接，実技検査	面接，日本語(作文)	面接，日本語	面接，学力検査	面接(口頭試問を含む)	面接
特記事項，備考		面接を通じて，教育学部の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。		鉛筆によるデッサン（実技道具は大学で準備します。）		日本語は，読解及び作文とします。	面接を通じて，志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて，志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。また，口頭試問によって志望分野に必要な学力について評価します。	面接を通じて，志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。

（注1）○印は，必ず受験しておくことを示します。
（注2）△印は，数学のコース1又はコース2から1つを受験しておくことを示します。
（注3）各学部第1志望のみ。
（注4）インターネット出願時に TOEFL iBT の受験情報【スコア】を入力してください。また、Test Taker Score Report（PDF）を提出してください。さらに、必ず TOEFL を実施している ETS の個人アカウントにログイン後、送信を希望するスコアの試験を選択し、本学が指定する DI コードを選択のうえ、スコアの直送手続きを行ってください。
※手続き方法（https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/scores.html）
※受験日の前日午後10時までにスコア送信手続きを行うことで、最大4機関まで無料でスコアを送付することが可能です。その場合は、アカウント左側の『My Tests』より受験予定の試験を選択し、本学指定の DI コード【8267】を利用して、送信先の設定を行ってください。

日本留学試験，TOEFL，学力検査等の配点等

事項		教育学部		芸術地域デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
				芸術表現コース	地域デザインコース				
日本留学試験	文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	日本語	450	450	450		325	450	450	450
	理科		200				200	200	200
	数学	200	200	200		100	200	200	200
	総合科目	200		200		100			
TOEFL		300		300			300	300	300
面接		400	400	500	400	合，否	60	850	850
日本語		500	500		500	300			
学力検査							240		
実技検査				400					
総合評価等		2,050		2,050		合，否	1,450	2,000	2,000

4　入試日程

学部	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部，芸術地域デザイン学部，経済学部，理工学部，農学部	2026年11月11日(水) ～ 2026年11月18日(水)	2027年2月26日(金)	2027年3月8日(月)
医学部（医学科）		2027年2月25日(木) ～ 2027年2月26日(金)	

Ⅷ　合格者を対象とした入学前教育の実施について

佐賀大学では合格者を対象とした入学前教育を行います。入学前教育の詳細は合格者に送付する合格通知書に同封します。

Ⅸ　障がい等のある志願者との事前相談について

障がい等のある志願者で，受験上及び修学上の配慮を必要とする方は，本学ホームページから「障がい等のある志願者による事前相談申請書」をダウンロードし，必要事項を記入の上，必要書類を添えて学務部入試課に送付し相談してください。

なお，本学では，ウェルビーイング創造センター 学修支援部門を設置して，障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

＊必要書類

医師の診断書

大学入学共通テスト受験上の配慮事項決定通知書（写）（大学入試センターに申請し通知書が手元にある者）

相談の期限

申請される場合は，所定の出願開始日の１週間前までに申請書を提出してください。

なお，相談の内容によっては，本学の試験までに対応できず，配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので，可能な限り早めに相談してください。

また，期限後に不慮の事故等により受験上及び修学上の配慮を希望する場合は，その時点で速やかに相談してください。

受験上の配慮の一例

・試験時間の延長
・１階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験
・多目的トイレに近い試験室で受験
・座席を最前列／最後列／出入口付近等に指定
・別室の設定
・補聴器又は人工内耳の装用
・特製机・椅子の持参使用
・車椅子の持参使用
・杖の持参使用
・拡大文字問題冊子の配付
・注意事項等の文書による伝達
・試験場への乗用車での入構
・試験室入口までの付添者の同伴

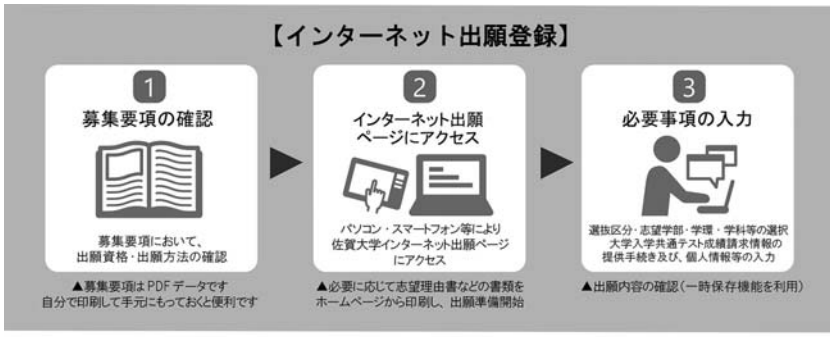
X　インターネット出願について

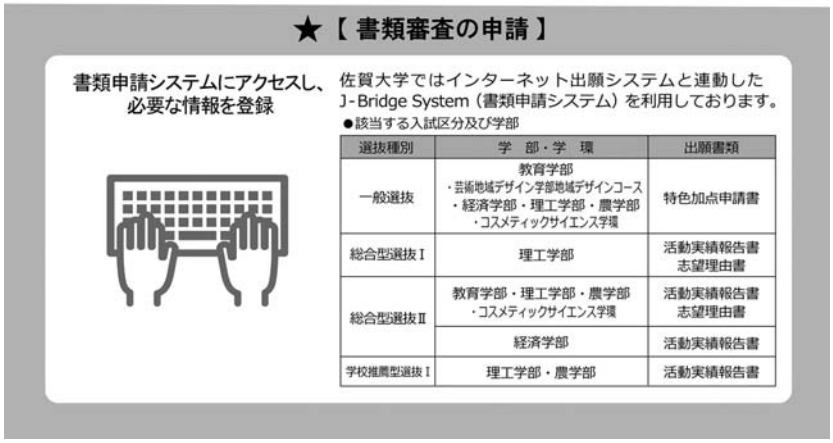
佐賀大学では，パソコン，スマートフォン等を利用したインターネットによる出願受付を行っており，各学生募集要項や出願に必要な書類はホームページでご確認いただいております。

・出願から受験までの流れ

出願登録サイトにて「インターネット事前登録開始日」から出願情報の登録はできますが，出願書類提出期間内に各種出願書類を提出する必要がありますので，それに間に合うように出願登録・検定料の支払いを行ってください。

なお，学部によっては，特色加点申請書，活動実績報告書，志望理由書などをインターネット出願システムと連動した J-Bridge System（書類申請システム）から登録する必要があります。





選抜種別	学　部・学　環	出願書類
一般選抜	教育学部 ・芸術地域デザイン学部地域デザインコース ・経済学部・理工学部・農学部 ・コスメティックサイエンス学環	特色加点申請書
総合型選抜Ⅰ	理工学部	活動実績報告書 志望理由書
総合型選抜Ⅱ	教育学部・理工学部・農学部 ・コスメティックサイエンス学環	活動実績報告書 志望理由書
	経済学部	活動実績報告書
学校推薦型選抜Ⅰ	理工学部・農学部	活動実績報告書

佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ https : //www. saga-u. ac. jp/

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp

大豆インクで印刷しています